

ティーパーティー運動（下）

—アメリカ政治の新方向？—

藤 本 一 美
末 次 俊 之

〈目 次〉

第一部 ティーパーティー運動の分析

1. はじめに—アメリカ政治の新方向？
2. ティーパーティー運動の輪郭
3. ティーパーティー運動の起源
4. ティーパーティー運動の組織
5. ティーパーティー運動の理念
6. ティーパーティー運動の実像
7. おわりに—今後の課題と展望

第二部 『ティーパーティー・ナショナリズム』（妙訳）

序文

はじめに

1. ティーパーティーの起源
2. フリーダムワークス・ティーパーティー
3. 1776ティーパーティー
4. レジストネット・ティーパーティー（以上、112号）
5. ティーパーティー・ネーション
6. ティーパーティー・パトリオッツ
7. ティーパーティー・エクスプレス
8. 人種主義、反ユダヤ主義、および極右武装組織の影響
9. 「アメリカ人とは誰のことか」：ティーパーティー、排他主義、
およびバーザーズ

（図1，2，3）

（以上、本号）

5. ティーパーティー・ネーション

ティーパーティー・ネーション (TPN) は、ナッシュビルで弁護士業を営むジュドソン・フィリップス (Judson Philips) とその妻シェリー・フィリップス (Sherry Philips) により組織された。彼は地元の共和党の活動家で、前地方検事補である。2010年における弁護士としての業務は、飲酒運転および身体障害に関する訴訟を専門としている。ジュドソン・フィリップスは、公文書によると、1999年に連邦破産法第7条による自己破産を申請していた。過去10年の間、彼は、三度にわたる連邦租税抵当権行使を受けており、それは総額2万2,000ドル以上であった。ただし、彼は、租税抵当を支払ったと主張している。

ティーパーティー・ネーションは、自らを、「建国の父たちが記した、我々の神から与えられた個人的自由を望む同志の人々からなる、参加者主体の団体である。我々は、制限された連邦政府、表現の自由、連邦憲法修正第2条、わが国の軍隊、わが国の確固とした国境が重要だと信じている!」、と説明している。

ジュドソン・フィリップスは、「私は、穏健派をひきつけようと試みてはいない。穏健派は、単にいかなる中心的な信条をも抱かない人たちである」、と述べた。

ティーパーティー・ネーションの誕生の経緯は、いくつかのその他の分派たちのそれと同じである。フィリップスは2009年2月27日、ナッシュビルにおいて、ティーパーティ集会の計画を支援した。そのイベントには数百人が参加した。集会運営では、数名がボランティアとなった。4月6日、彼は、ティーパーティーネーション.com (TeaPartyNation.com) をドメイン名として登録した。フィリップスと彼のボランティアたちは、ナッシュビルでの4月15日の税の日ティーパーティー抗議運動を計画した。そこには、約1万人が参加し、そこから近いテネシー州フランクリンでは、さらに4千人が加わった。この成功によって、(ネーションは) 公式に全米で展開する勢いがついた。

ティーパーティー・ネーションは今日、三番目に大きい全国的ティーパーティー・ネットワークであり、2010年8月1日現在、オンライン会員は3万1,402名

である。地理的に見ると、会員たちが最も集中しているのは、組織の本拠地があるテネシー州である。また、北西部地域、テキサス州、フロリダ州、カリフォルニア州、およびネバダ州に相当数の会員が存在する。ティーパーティー・ネーションの会員数上位10都市は以下のとおりである。すなわち、テネシー州ナッシュビル、ネバダ州ラスベガス、テキサス州ヒューストン、テネシー州フランクリン、テネシー州マーフリーズボロ、ニューヨーク州ニューヨーク、イリノイ州シカゴ、コロラド州デンバー、ワシントンD.C.、およびカリフォルニア州サンディエゴである。男女別のオンライン会員の内訳は入手できていない。

当初、運動資金の取扱いと共和党組織とのその運動の関係という二つの論争の結果、ティーパーティーの中での溝が明らかになった。組織の創設以来ウェブ管理ボランティアであるケビン・スミス（Kevin Smith）によれば、フィリップスから、新たに創設した組織が非営利団体として運営される印象を受けた。だが実際には、2009年4月21日、フィリップスは、ティーパーティー・ネーション社を営利法人としてテネシー州務省に公式に申請登録をしたのである。

この行動は、組織内部で最初の衝突を生み、ウェブ管理者のスミスは、2009年4月24日、これに抗議して辞任した。献金者たちに向けたEメールの中で、スミスは、詐欺行為に加担したことをわび、フィリップスを厳しく非難した。すなわち、「私は、ティーパーティー運動の何百人ものボランティア、献金者、企業後援者、および熱心に支援する人たちからの、利己心からではない寄付を使用する法人の設立に強く反対した。この活動が、ティーパーティーの集会を計画・運営し、その目的を前進させることを意味する、利益を求めないものと考えたために、あなた方は私と同じように、時間とお金を惜しみなく費やしたのだと、私は思う。このことが、まさに私がティーパーティー・ネーションにかかわり続けることができない理由である」。

スミスはまた、組織が目指す方向にも批判を加えて、「私にとって、ジュドソンと彼の営利法人ティーパーティー・ネーション社が、ティーパーティー運動を乗っ取る過程で、共和党の先鞭となっていることが明らかにされた。真の自由を

求め、しかも民主・共和両党による大きな政府の政策に対する国民の不満の申し立てから始まったものが、今は、2010年の中間選挙綱領としてこれを利用することを決意した共和党主流派のデマゴグによって取り込まれている」と述べた。

(ワシントン州ボゼルのデイブ・カソルド (Dave Kasold) は、後に「技術監督」としてスミスと交代した。カソルドは、イーストサイド・ティーパーティー (Eastside Tea Party) と呼ばれる集団結成を支援していた。カソルドはまた、民主党の指導者たちの風刺画を載せたトランプを販売する営利法人ハンズオブリバティ .com (HandsofLiberty.com) を運営している。カソルドはレジストネットのソーシャルネットワーク・サイトの会員でもある。)

組織の運営を担う会員たちを含む他の人々が、すぐにスミスの後を追って脱退した。2009年の秋の数ヶ月間、フィリップスとティーパーティー・ネーションが、翌年の2月に開催する大会を計画した時、二度目の論争が始まった。550ドルの登録料の提案に対して指導的立場の会員数名が反対した。賛否両論を問うゴールデン・コーラル・レストランでの集会在11月7日に開催された後、多数の支持者たちが脱退した。

フィリップスは、運営委員会や大会企画ボランティアたちの懸念を緩和させる方法を探す代わりに、企画過程から双方の集団を締め出し、7名で構成されたグループと交代させた。すなわち、シェリー・フィリップス、ジュドソン・フィリップス、彼の義姉妹のパム・ファンズワース (Pam Farnsworth)、シカゴを拠点とする「ブルース・ドネリーの波・米国 (Surge USA Bruce Donnelly)」の代表であるブルース・ドネリー (Bruce Donnelly)、スポーツカードを販売するアッパー・デッキ社の設立者、ビル・ヘムリック (Bill Hemrick)、およびヘムリックのビジネスパートナーであるジェイソン・ルコビッツ (Jason Lukowitz) である。年末までには、縮小された企画委員会は大会開催の計画を軌道に戻したように思われた。

〈2009年夏の祭壇からの呼びかけ集会（Altar Calls）〉

2009年の夏の間中、ティーパーティー・ネーション（TPN）は、7月6日の信仰復興集会（Revival Rally）および7月31日の祭壇からの呼びかけ集会（Alter Call）を含めて、ナッシュビルで多数のイベントを開催した。その組織はまた、ワシントンD.C.における大規模な9.12行進の公式支援団体となった。

2009年7月31日、テネシー州ナッシュビルのコーナーストーン教会で開かれた「祭壇からの呼びかけ集会」には、キリスト教保守派600名が集い、「戦いへの集結」を求めた。フィリップスは聴衆に向かって行動を起こすように熱心に説いた。彼は「あなた方はこれに関わるべきである。傍観している時は終わった」と述べた。彼が呼んだ「オバマ・ペロシ・リードの悪の枢軸」と戦うよう聴衆に訴えた。彼は、悪の枢軸が米国的生活様式を脅かすと信じていた。フィリップスは、「今夜、我々はいつもの祭壇からの呼びかけとは違った呼びかけを行なっている。今夜の呼びかけは、神に向けたものではなく、わが国に向けたものである」と述べたのである。

その呼びかけ集会での主な呼び物は、地元のトーク番組のホストであるラルフ・ブリストル（Ralph Bristol）であった。ブリストルは、緑色の軍服を羽織り、米国旗を飾った野球帽をかぶって登壇した。そして、彼が「ブリストル軍曹」と呼んだ人物の役を演じた。聴衆の中の数人は同じ軍服を羽織り、銃を携えていた。ブリストルは社会主義の怪物を根絶するため、聴衆に向けて出陣命令を下したのである。

〈大会開催の計画〉

ティーパーティー・ネーションが大会開催の計画を続行するにおよんで、問題が蒸し返された。2010年1月、大会の最大後援団体の一つである「アメリカ自由同盟（American Liberty Alliance, ALA）」は、「ナッシュビルでのイベントに協力することを見送る」と表明した。ALAにとって問題となったのは、活動資金の運用方法であった。ALAの理事であるエリック・オドム（Eric Odom）は、

「そのイベントをめぐる論争はティーパーティー・ネーションの組織構造に関する議論を必要とし、さらに、活動資金を集める方法は個人の銀行口座およびオンライン口座を通じて行なわれている」と述べた。

共和党の中で、地方幹部たちを広く送り込むことを求める団体「全米選挙区同盟 (National Precinct Alliance)」もまた、参加しないことを表明した。当該団体の全国局長フィリップ・グラス (Philip Glass) は、声明の中で、「我々は、TPNが草の根の運動で不当に利益を得て搾取を行なう様子に、大きな懸念を覚える」と述べた。グラスはさらに、ティーパーティー・エクスプレスおよびフリーダムワークスのような団体が大会で果たす役割について失望を明らかにした。彼は、それらの団体を「共和党全国委員会 (RNC) の関連団体」と呼び、そして「良くても RNC の乗っ取りを見せかけるか、悪くすると RNC それ自体になる」とつけ加えた。

さらに、広く読まれている右派ブログであるレッドステート.com (RedState.com) の編集者、エリック・エリックソン (Erick Erickson) がこれに加わり、「私は、この全国規模のティーパーティー大会が詐欺まがいのものであると思う」と述べた。

主要な移民排外・反移民団体のひとつである「米国移民法改正連合 (Federation for American Immigration Reform, FAIR)」は当初、その大会の公式「第三級」後援団体であった。そのことは、1月4日にティーパーティー・ネーションが行なった、全国大会に関する報道機関への発表の中で明らかにされた。FAIRのロゴは全国大会ウェブサイトに掲載され、そして、「特赦の盾作戦 (Operation Amnesty Shield)」の作業部会が企画されていた。しかしながら、FAIRは、1月の第2週に入ると、ティーパーティー・ネーションの営利法人資格が、FAIRの連邦歳入法503条c 3項における非営利団体資格に抵触する可能性があるとして、大会参加を断念した。FAIRのスタッフたちはまた、全国大会で手にする運動資金が政治家候補へと流れる可能性を何度も表明した。

ワシントン D.C. で開かれた2009年9月12日の集会の後援団体の一つにティー

パーティー・ネーションが挙げられる。フリーダムワークスはまた、ティーパーティー・ネーションの大会を支援しなかった。フリーダムワークスのスタッフであるアダム・ブランドン（Adam Brandon）が説明するように、「ナッシュビルでは、多くの人々が反同性愛あるいは反移民のような社会的争点に焦点を当てていたようだ。しかし、それはある運動を拡大するには良い方法ではない。我々は、我々が共通に抱えていることに焦点を当てたい。それは、大きな政府と税制に反対するということだ」。このような批判にもかかわらず、それら二つのティーパーティー分派は、その他の点では行動をともにしていた。

ティーパーティー・パトリオッツは、テネシー州に相当数の会員を抱えており、その大会を支援することは可能であった。しかしながら、ティーパーティー・パトリオッツの共同設立者の一人であるマーク・メクラー（Mark Meckler）は、来るべきナッシュビルでのイベントを「草の根運動の強奪」と評した。メクラーは、大会での法外な参加費について、「我々の運動に参加する大部分の人々は、そのような金額を支払うことはできない」と述べた。実際、高価な登録料とペイリン女史の講演料こそ、その後テネシー州で開催された2度目の大会で、連携を新たにしたティーパーティー団体が計画した理由の一つとして言及されたのである（ティーパーティー・パトリオッツの章を見よ）。

〈2010年2月ナッシュビル大会〉

大会の開催をめぐるあらゆる困難にもかかわらず、ナッシュビルでの大会は盛況であった。サラ・ペイリン（Sarah Palin）女史が会場で講演を行った。彼女の講演料について議論が生じ、10万ドル以上であるとうわさされた。その大会では、ペイリン女史の出席に伴う盛り上りの裏で、一般にこの種の運動内部に存在し、とくにジュドソンが率いるティーパーティー・ネーションの中のキリスト教保守主義、実際にはキリスト教ナショナリズムが強調された。この大会ではまた、移民排外主義者たちといわゆるバーザーズへの橋渡しが行なわれた、といわれる。大会の焦点が、連邦政府による救済措置および赤字財政から文化戦争へと向かっ

たのは明白であった。

このようなやり方は、テキサス州パールランド出身で前南部バプティスト教会牧師のリック・スカーバラ（Rick Scarborough）博士が中心となった215名ほどの作業部会で明らかにされた。スカーバラは、「ビジョン・アメリカ（Vision America）」、「ビジョン・アメリカ・アクション（Vision America Action）」、および「連邦憲法の再生を求めるユダヤ教・キリスト教協議会（Judeo-Christian Council for Constitutional Restoration）」を含む団体を指揮している。キリスト教右派について強調すべき事実は、ジェリー・ファルウェル（Jerry Falwell）牧師の著作を最初に出版したのが、これらの団体であったことである。

スカーバラは、数多くのテレビ番組の出演を編集した8分間のビデオを流した後、聴衆に向かって「財政的保守主義者と社会的保守主義者との間の溝をなくさなければならない」と語った。ゲイとレズビアンへの攻撃から連邦政府による憎悪犯罪保護令状を含めた、オバマ政権に対する批判に加えて、スカーバラは、我々が「集産主義者」の社会に移行しつつあると警告した。彼は、我々には「米国外主義」を擁護する神聖な義務がある、と述べたのである。

スカーバラは、「オバマの専制を阻止する全米連合（S.T.O.P Obama Tyranny National Coalition）」の事業である“米国を救う指令（the Mandate to save America）”とよばれる新たな運動を進める演説を繰り返して行なった。また彼が「もうたくさんだ！」と述べた際に、その会場の聴衆は興奮し、熱烈な拍手を送った。彼が話し終えた後、ある老齢の女性が「我々に必要なのは、復興と反乱である」と発言し、聴衆から拍手が送られた。

このような状況は、判事であるロイ・S・ムーア（Roy S. Moore）による大会の昼食時の基調演説でも続いた。アラバマ州最高裁判所判事であったムーアは、裁判所内からモーゼの十戒の彫像を撤去する裁判所命令を執行することを拒否した後解任された。大会の開催時、ムーアは、アラバマ州知事を目指して共和党予備選挙に立候補した。

ムーアは演説の中で、「我々は戦わなければならない」とし、「戦争は避けられ

ない」と宣言した。彼はイラクやアフガニスタンについては語らなかった。「戦いはここ米国にある。我々は共和国と神への信仰を守らなければならない。我々は行動を起こさなければならない」と彼は述べた。ムーアは、「神聖な戦い」について語り、また「キリスト教徒が立ち上がる時である」と宣言した時、会場全体から大きな喝采を浴びた。

さらに、ナッシュビルでのティーパーティー・ネーション全国大会では、著名な保守派の黒人司教 E・W・ジャクソン (E. W. Jackson) が短い演説を行ない、ティーパーティー大会の参加者たちに祈りをささげた。ジャクソンは、「私は、この場でナチス支持者あるいは人種主義者たちを見かけない。私は、自分たちの国を愛し、我々が信じる価値のために立ち上がろうとしている米国人たちを目にしている」と述べた。ジャクソンは、アフリカ系米国人たちがティーパーティー運動に参加することを促したのである。

2009年、ジャクソンは、「米国の運命に誠実である (Staying True to America's National Destiny, STAND)」という組織を設立した。それは、「わが国のユダヤ教・キリスト教の歴史および諸価値の擁護、中絶の殺戮からの胎児の保護、一夫一婦制に基づく神聖な結びつきとしての婚姻の維持、わが国における世俗での無神論、反ユダヤ、並びに反キリスト教の偏見を正すこと、世界で最も強力な軍事力の維持、イスラエルが存在する権利およびその国境内での安全の確保、これらの価値感を掲げる政治指導者たちへの支援と、それらを支持しない指導者たちへの反対、また、出自を問わず、神の下での一つの国家米国という考えを広める、これらのことに身をささげる米国人たちの全国的な草の根組織」であると主張した。彼はまた、その集会で憎悪犯罪法案に反対の立場を明らかにし、その法案が「反キリスト教の偏見と憎悪がきわまった」結果として生まれたものだ、と糾弾した。

さらに、ジャクソンは、彼が「民主党およびリベラルな連邦下院黒人議員連盟に政治的宣戦の布告」を行なっている「スタンド・アメリカ政治活動委員会 (STAND AMERICA PAC)」を設立した。ジャクソンによれば、「妊娠中絶、ホモ

セクシャル、および道徳的相対主義に対する民主党の取り組みは黒人キリスト教徒コミュニティに対する侮辱である。それは「不信心な人々からなる連合」である。黒人キリスト教徒は「不信心な人々からなる連合」には与しないし、そのような人々に投票すべきではない」。しかしながら、その PAC は、本報告書が執筆されている時点では1万3,000ドルの歳入があったものの、それだけで人々を動員するには不十分だ。

ウェブサイト・ワールドネットデイリー (WorldNetDaily) のジョセフ・ファラー (Joseph Farah) は、金曜日の大会の夜、基調演説を行なった。ファラーは、オバマの出生証明への自らの執念のために聖書の話を捏造し、演説の半分近くをそれに費やした。しかしながら、その大会に出席した著名人たちの一部は、その種の「バーザーズ」の陰謀説を好んでいなかった。例えば、アンドリュー・ブライトバルト (Andrew Breitbart) は、個人的に彼を批判した。それにもかかわらず、大統領バラク・オバマが米国生まれか否かをめぐる論争は、ナッシュビルの大会で拡大した。例えば、ハワイ州出身でルート66ティーパーティーの会員のミッキ・ブース (Miki Booth) は、大会議場で、連邦下院オクラホマ州第2選挙区に出馬することを表明した。オバマの出生証明書のコピーを掲げながら、彼女は「あなた方がそれらの一つを持っていない時、この役に立たない代物は、あなたがたのものだ」と語り、彼女の出生証明書のコピーを聴衆に向かって掲げた。カリフォルニア州在住で、出生証明の問題を最も声高に主張したオーリー・タイツ (Orly Taiz) が大会に姿を現したとき、彼女は温かく出迎えられ、多くのサインを求められるほどであった。

既述のように、「米国移民法改正連合 (FAIR)」がその大会に参加しなかったものの、それでもなお、FAIRの数名の支持者たちは、ティーパーティー・ネーションの聴衆に向かって演説を行なった。ナッシュビルでのラジオ番組ホストであり、その番組でFAIRを何度も特集しているフィル・バレンタイン (Phil Valentine) は、大会で演説を行なった。2006年、FAIRのスタッフであるスーザン・タリー (Susan Tully) とともにタウンホール集会の放送を行なった際、バ

レントインは、国境警備隊員（Border Patrol Agents）に不法入国の移民たちに「発砲」するように助言した。

さらに、コロラド州選出の前共和党下院議員トム・タンクレド（Tom Tancredo）は、大会の開会を告げる演説で、オバマ大統領と「多文化主義のカルト」に激しい批判を浴びせた。タンクレドは2008年大統領選挙を評して、「“投票”という言葉のつづりがわからない、もしくはそれを英語で言うことができない人々が、社会主義に傾倒するイデオログをホワイトハウスに送り込んだのだ」、と述べた。タンクレドはまた、オバマ勝利の理由として、「公民教育試験を受けなくても、人々は投票できる」ことをあげた。いわゆる「連邦下院移民法改正議員連盟（House Immigration Reform Caucus）」を発足させたタンクレドは、わめくような演説の中で、穏やかな皮肉を失わせているように見えた。移民たちに対して、市民になり投票権を得る過程で公民教育試験を受けるよう求める一方で、会場の聴衆たちのような、米国で生まれた人々にはそれを求めなかった。彼は、ジム・クローによる分離差別の下で行なわれた、アフリカ系米国人の投票を阻止する読み書き試験を活用することについては、都合よく触れることはしなかった。ボールルームの近くに陣取っていたティーパーティーの聴衆たちは、タンクレドによる人種差別的な非難声明に熱狂的な声援を送ったのである。

タンクレドは、また、ロイ・ベック（Roy Beck）が率いる「ナンバーズ USA（Numbers USA）」とともに、反移民活動の展開に焦点を当てる作業部会を開催した。ベックは、反移民運動の中で最も積極的な活動家たちの一人で、連邦上院での公聴会で証言を行なうとともに、白人ナショナリズム団体である「保守派市民協議会（Council of Conservative Citizens）」の集会で演説を行なった。

その作業部会が開会する前、ベックは出席者らと「在留許可のための赤ん坊」および連邦憲法修正第14条の生得的市民権について話をした。彼は、それはナンバーズ USA の行動計画に掲げられていたが、しかし、現在の民主党支配の連邦議会で取り上げられるや、彼らは移民労働者に的を絞る法案に焦点を絞っている、と述べた。作業部会で、ベックはナンバーズ USA のソーシャルメディア調査局

長のチャド・マクドナルド (Chad MacDonald) を紹介した。マクドナルドは、ナンバーズ USA を全国の各地方ティーパーティー組織に「移民問題専門家」の配置を計画している組織であると述べた。また、彼は、ティーパーティー参加者たちに親近感を覚えている、と告白した。彼は、2009年秋、カリフォルニア州パサデナで開催された「反特赦 (anti-amnesty)」ティーパーティー集会でも演説を行なったのである。

本報告書でも触れたように、ティーパーティー・ネーションは、2010年10月中に、ネバダ州のラスベガスで「総 (unity)」大会を計画していた。

6. ティーパーティー・パトリオッツ

ティーパーティー・パトリオッツのウェブサイトは、2009年3月10日に登録された。その信条は、建国の父祖たちと私有財産制の教義を含んでいる。「ティーパーティー・パトリオッツは、共和国の後継者として、わが国の父祖たちと同じ立場であり、彼らの遺産と我々自身を保護する我々の権利および義務を果たすことを求める。建国の父祖たちの時代もそうだったように、私有財産と成功とが自然法および個人の諸権利によって守られているとき、わが国に本来の恩恵がもたらされると、我々は考える」。2009年6月、ティーパーティー・パトリオッツは、連邦歳入法第501条 (c) 4条項の非営利団体となった。2010年1月、連邦選挙委員会に「ティーパーティー・パトリオッツ社政治活動委員会 (Tea Party Patriots Inc. PAC)」を登録した。しかしながら、本報告書で述べたように、当該 PAC には政治資金の収支がまったく見られなかった。

すべてのティーパーティー分派の中で、ティーパーティー・パトリオッツは、最大の草の根組織であるということが出来る。2010年8月現在、ウェブサイトには2,200以上の地方ティーパーティー・パトリオッツ支部が掲載され、その数は、その他のすべての全国的分派の数を上回っている。2010年8月1日現在、その主要ウェブサイト上に11万5,311名の会員が存在し、7万4,779名がソーシャル・ネットワークワーキング・ウェブサイトに登録している。ティーパーティー・パトリオツ

ツのオンライン会員は、全国のあらゆる地域に存在しており、会員数上位10都市は以下の通りである。すなわち、ニューヨーク州ニューヨーク、テキサス州ヒューストン、コロラド州コロラドスプリングス、ネバダ州ラスベガス、カリフォルニア州サンディエゴ、イリノイ州シカゴ、およびカリフォルニア州バーバリーヒルズである。ティーパーティー・パトリオッツはまた、男性会員が大半を占め、男性63%、女性31%、男女別を選択しない者が6%である。

ティーパーティー・パトリオッツの運営費は、その組織規模にもかかわらず、フリーダムワークス、ティーパーティー・エクスプレス、およびレジストネットよりもかなり少額である。ティーパーティー・パトリオッツの2010年5月31日現在の会計報告書によれば、寄付金総額は53万8,009ドル、そして総支出が44万0,596ドルであった（企画運営費に34万2,559ドル、組織運営費に5万8,037ドル）。

〈ティーパーティー・パトリオッツの設立者たち〉

ティーパーティー・パトリオッツの当初の全国幹部たちは、組織のフェイスブックのページに掲載されているように、ジェニー・ベス・マーティン（Jenny Beth Martin）、マーク・メクラー（Mark Meckler）、およびエイミー・クレマー（Amy Kremer）であった。

ジョージア州アトランタ出身で39歳のジェニー・ベス・マーティンは、かつて共和党の政治コンサルタントであった。彼女がティーパーティーに参加した経緯には、税金をめぐる収税官との衝突があった。裁判記録によれば、マーティンおよび彼女の夫が2008年8月に破産した際、夫妻には連邦歳入庁に対する50万ドル以上の額を含めて68万ドルを超える滞納税があった。マーティンの財政上の災難は共和党大統領ジョージ・W・ブッシュ政権時代に生じたもので、ティーパーティー・パトリオッツによる厳しい批判はオバマ大統領に向けられている。目下、マーティンはティーパーティー・パトリオッツのCEO（最高経営責任者）として1ヶ月6,000ドルの報酬を得ている。彼女はまた、彼女の出身地の地方ティーパーティー組織の共同代表を務めている。

パンクロック DJ から企業家へと転進した48歳のマーク・メクラーは、カリフォルニア州の南部に住んでいる。2007年、メクラーはインターネット会社オプト・イン・ムーブメント (Opt-In Movement) を立ち上げた。その業務は、政治家候補にEメールリストを作成するものであった。その会社は、フリーダムワークスを含めて、共和党の候補者とその運動の支援業務を熱心に行なった。メクラーはまた、公務員労組の投票権に関する住民提案に反対する請願署名を集めることで、カリフォルニア州共和党系の企業団体から報酬を得た。彼は、ティーパーティー・パトリオッツを共同で設立する前には、サクラメントでティーパーティー組織の幹部を、その後、カリフォルニア州ティーパーティー組織でも幹部となっていた。

ジョージア州ロズウェル出身のエイミー・クレマーが、ティーパーティー・パトリオッツの三番目の全国幹部であった。クレマーは、全国抗議運動の最初の段階において、その他の地方組織との協力を援助するとともに、ジョージア州ティーパーティーの参加者たちを組織した。クレマーは、ティーパーティー・エクスプレスで草の根および連合担当局長 (Director of Grassroots & Coalitions) に就任するまで、ティーパーティー・パトリオッツの組織委員を務めた (以下の議論も参照せよ)。

ティーパーティー・パトリオッツの全国調整組織には、デビー・ドーレイ (Debbie Dooley)、マイク・ガスク (Mike Gaske)、ケレン・ガイダ (Kellen Guida)、ライアン・ヘッカー (Ryan Hecker)、サリー・オルジャー (Sally Oljar)、ディアナ・レイマー (Diana Reimaer)、ビリー・タッカー (Billie Tucker)、およびドーン・ワイルドマン (Dawn Wildman) が加わった。

その新たな組織的ネットワークは、規模拡大の後援を受けた。というのも、2009年4月、エリック・オドムが税の日ティーパーティーのウェブサイトにも、「運動の勢いを移す場」がティーパーティー・パトリオッツであり、「ティーパーティー・パトリオッツは、草の根指向の私欲のない個人の集団で構成されている。彼らは当初から運動の一員であった。私は、我々がここに築いたもののために協

力する環境が、最も整っている組織が彼らであると思う…」という声明を掲載したからである。オドムは、「だから、あなたが“2009年7月4日とそれ以降、私はどこに参加するべきか”と問うた時、その答えはきっとティーパーティー・パトリオッツとなるであろう」、と述べた。

地方で新組織が設立されるや、彼らはティーパーティー・パトリオッツに加わった。その全国的ネットワークは急激に成長をとげた。

2009年9月のワシントンD.C.での行進において、その他のティーパーティー分派との連携を成功させた後、ティーパーティー・パトリオッツは、その他の全国的組織と初めて深刻な対立を経験した。その契機は、クレマーがティーパーティー・エクスプレスに加わったことであった。ティーパーティー・パトリオッツは、10月15日、理事会の文書で、正式に彼女を指導部から解任した。そしてクレマーに対して訴訟を起し、11月10日、彼女がパトリオッツの名称を使用することの差し止めが認められた。その時点で、その二つの組織は、お互いに協力することを止めたのである。

二つ目の不和は、2010年2月、ティーパーティー・ネーションとの間で生じた（これはティーパーティー・ネーションの章で論じた）。ティーパーティー・パトリオッツは、5月、テネシー州ガトリンバークで開かれた「テネシー・ティーパーティー連合大会発足大会（Tennessee Tea Party Coalition Convention Inaugural Convention）」の後援団体の一つとして続けて協力した。

〈2010年5月のガトリンバークでの連合大会〉

この集会は、ティーパーティー・ネーションのイベントとはまったく対照的なものであった。入場料は35ドルで、ナッシュビルのイベントよりもかなり低額で多くの人々が参加可能なものであった。基調講演を行なった著名人は、連邦下院議員のステーブ・キング（共和党、アイオワ州）であった。彼は、サラ・ペイリン女史と比べてメディアから詮索をまったく受けなかった。テネシー州の20以上の地方ティーパーティー組織がその集会の後援団体となった。後援団体側はそ

のイベントの前売りチケットを1,000枚販売したと述べ、また報道機関に多数の出席者を予想していると語った。しかしながら、その場に居合わせた観察者によれば、出席者は多く見積もっても300名にすぎなかった。

作業部会で注目されたのは、反イスラム教のアジテーターであるパム・ゲラー (Pam Geller) による報告、また、警察官と軍関係者を登用し、連邦憲法の独自の解釈を擁護するために活動する、ある種の民兵組織「宣誓の守護者たち (Oath Keepers)」による報告であった。「スパイク連邦憲法の擁護者たち (Spike Constitution Defenders)」と共同で開かれた同様の作業部会では、民兵武装集団 (Posse Comitatus) 風のレトリックが、彼らのプロパガンダと組み合わせられた。その他の作業部会では、報告者のサミュエル・ダック (Samuel Duck) が、連邦憲法修正第16条および第17条の撤廃を主張した。修正第16条について、これは連邦議会に所得税の徴収の権限を与えるもので、長年にわたって極右による攻撃的となっていた。しかしながら、修正第17条に関しては、これは連邦上院議員を直接選挙により選出することを規定したもので、こちらは広く論争的となっていなかった。その撤廃の支持者として、テキサス州選出の共和党下院議員ロン・ポール (Ron Paul)、保守派コラムニストのトニー・ブランクリー (Tony Blankley) が挙げられる。彼らは、その撤廃を州権の拡大と見なしている。ティーパーティーの内部に見られる修正第17条の撤廃が、反・民主主義の最大の提案の一つであるのは明白である。

この大会では、ティーパーティー・パトリオッツは、第一級の後援団体 (2,500ドルの支援額) であった。ガトリンバーグ大会の後援団体の中で唯一の全国分派であり、その組織的拡大の顕著な特徴として、このような広範な、地域的に支援されたイベントの開催が挙げられる。実際、ティーパーティー・パトリオッツを支えているものは、連携する州および地方のティーパーティー支部からなるネットワークである。それら地方支部が最も強固な基盤である。しかしながら、その指導的立場の人々の中に、民兵会員、人種差別主義者、およびその支持者たちが存在することは、最大の政治的弱点である。

以前はテキサス・ティーパーティーのウィンズボロ支部 (Winnsboro, Texas Tea Party) と知られていた「ウッド・カウンティ・ティーパーティー (Wood County Tea Party)」を見てみると、テキサス州ダラスとルイジアナ州シュリーブポートの中間に本拠地を置くこの団体が、2009年に設立され、2010年1月にそのウェブサイトを立て上げたことが判明する。その信条として、「国家の最高法規、財政的責任、限定された連邦政府、自由市場社会としての連邦憲法」を掲げている。この団体はティーパーティー・パトリオッツとフリーダムワークス両者の連携を主張しているものの、彼らは「ティーパーティー・ネーション、あるいは全国ティーパーティー連合とは提携していない (原文ママ)」ことを表明している。当初から、この団体は、地域での集会、バーベキュー、および共同後援イベントを開催していた。

ウッド・カウンティ・ティーパーティーはカレン・パック (Karen Pack) により指導されている。彼女は、自らを「キリスト教徒、ティーパーティー会員、立憲主義者、および愛国者」であると自負している。しかしながら、その記述から削除されているのは、カレン・パックとクー・クラックス・クランとの関係の経歴である。IREHR が入手した文書によれば、ウィンズボロ出身のカレン・パックは、タブロイド紙『白人愛国者』の購読者であり、クー・クラックス・クランの「トム・ロブが率いる勇士たち (Thom Robb's Knights)」の「公式支援者」として名を連ねていた。1970年代中期にデビッド・デューク (David Duke) によって設立されたクー・クラックス・クランの勇士たちは、一連の派閥抗争の後、ロブの管理下に入り、彼は、数十年にもわたり、組織化を探っていた。1990年代には、ロブは、クランをより中間に位置する「キリスト教愛国者」として位置づけようとした。しかしながら、依然として、クランは、白人至上主義を掲げる諸組織と連携する暴力的な伝統を受け継ぐ団体であった。1996年におけるロブ率いるクランとパックとの関係を、すべてのティーパーティー運動がクー・クラックス・クランと同様の関係にあるという証拠として取り上げるべきではない。しかしながら、このことは、クランが示す明確な人種差別主義とティーパーティーの

「我々は人種差別主義者ではない」という否定との間で、ある種重複する部分が存在するのを物語っている。

バックは、「テキサスではもはや黙ってはいない」と題した論文の中で、「毎日懸命に働き、そしてこの国の屋台骨である我々は、権力を熱望する混血児たちにある反発を覚えた。悪態をつく人々は自らを表現する英語 (english, 原文ママ) 能力を欠いている、と私の先生はよく言った。しかしながら、私はここで、彼が自分のルールに一つの例外を加えるよう望む。我々の反発は素朴なものであり、それは政治的に (Polically, 原文ママ) 正しいものでもなかったし、あるいは社会的に良いものでもなかった」と述べた。

「切なる訴え (Ardent Plea)」と題された他の論文の中では、バックは、「教会と国家のいかなる分離 (seperation, 原文ママ) もない。今までも決して存在することはなかった。単に、歴史を知らない、もしくは破壊主義的な人々が、その存在を主張するだけである。今日、我々の神を憎悪し、わが国を見下し、そしてキリスト教と米国双方を破壊するために何でもやりかねない人々がいる」と記した。

バックの見解は、わが国の将来に現れる暴力的な衝突を予見させる。すなわち、「今日、道徳、キリスト教信仰、および神から与えられた権利が我々の前で抹殺されており、それなのに、キリスト教徒たちは、それを食い止めるために何も行っていない。今日の悪が跋扈すれば、必然的に暴政につながるであろう。歴史はそれを証明している。もし、この国のキリスト教徒たちが教会にこもり、生じていることを見ないふりをし続けるならば、これはイエスおよびキリスト教信仰のあらゆる基盤を否定することではないか？我々は、この国の基礎をつくり、これを確立したキリスト教の重要な (fundamental, 原文ママ) 原則への忠実さ (allegence, 原文ママ) を、堂々と表明できないほどの臆病者なのか？キリスト教徒たちはどれほど長く待つのか？彼らはどれほど長く口をつぐむのか？キリスト教徒たちの信教の自由を保障する (garantees, 原文ママ) 世界で唯一の法律が連邦憲法であると彼らが理解するまで、敵は連邦憲法をどれほど切り刻むの

か？キリスト教徒たちは、敵が学校での祈祷を禁止したように、彼らがキリスト教信仰を禁止するまで何もしないのか？そのときまでには、流血の惨事が起こらずにわが国を守るには遅すぎるであろう」。

5月、ウッド・カウンティ・ティーパーティーは、「ティラー・ティーパーティー (Tyler Tea Party)」と「東テキサス憲法連盟 (East Texas Constitution Alliance)」とともに、民兵組織の著名人で宣誓の守護者に所属する保安官リチャード・マック (Richard Mack) の講演会を主催した。マックによる講演会の後援団体となった他のティーパーティー・パトリオッツの支部として、アラバマ州プラットビル、テキサス州アマリロ、ニューメキシコ州シルバーシティ、オレゴン州プラインビル、およびミネソタ州ブルームングトンの各組織が挙げられる。

ティーパーティー・パトリオッツの中での民兵組織は、リチャード・マックのような民兵組織に属する人物の存在とは別に広がりを見せている。いくつかのティーパーティー・パトリオッツの組織は、自らが民兵組織、あるいは積極的な活動を行なうために民兵的な組織構造を持つ、と公表している。

ティーパーティー・パトリオッツの地方支部はまた、「民兵隊壮年団 (Posse Comitatus)」と同様に、政治的暴力を助長する場でもある。2010年2月13日、ワシントン州アソティンで開かれた「ルイス・クラーク・ティーパーティー・パトリオッツ (Lewis and Clark Tea Party Patriots)」のイベントで、見知らぬ1人の女性演説者が、聴衆に叫んだ。すなわち、「あなた方のうち、どれくらいが“孤独な鳩 (Lonesome Dove)”の映画を見たか。登場人物のジェイクが悪い仲間と付き合ったとき、彼はどうなったのか？悪い仲間と付き合ったジェイクに起こったこと、それは縛り首であった。そしてそれが、私がパティ・マーレー (Patty Murray) の身に生じてほしいことだ」。連邦上院議員であるパティ・マーレーを縛り首にする訴えに対して、拍手が起こった。

ティーパーティー・パトリオッツの他の地方支部は、様々な傾向を持つキリスト教愛国主義的見解に訴えかけている。彼らは、「共和制対民主制」、市民権、および1990年代の民兵運動の中心的テーマであった連邦憲法修正第10条のようなト

ピックを取り上げた作業部会を設けている。

例を挙げれば、州全体にわたるネットワークを有する「ノースカロライナ・フリーダム・プロジェクト (North Carolina Freedom Project, あるいは NC Freedom)」は、ティーパーティー・パトリオッツとして登録されている。NC フリーダムの指導者たちはまた、ティーパーティー・ネーションとも緊密に活動している。NC フリーダムに所属する講演者たちは、2010年2月にナッシュビルで開催されたティーパーティー・ネーションの大会で人気を博した部会の講演者であった。彼らはさらに、10月にラスベガスで開かれるティーパーティー・ネーションの大会で講演することになっている。

NC フリーダムはまた、「ノースカロライナ・アメリカン・リパブリック (North-Carolina American Republic)」と称する外部グループが取り仕切る一連のセミナー開催を公表した。「我々の共和国を復興する」と題された作業部会は、個人が自らをノースカロライナ共和国—南北戦争後の再建法によって奪われた「真の政府」一の市民であると宣言できるという考え方を奨励した。これらの考えによれば、連邦憲法修正第14条は違憲であると見なされる。これらの見解は、1980年代の民兵壮年団による曲解された立憲主義から引き出されたもので、しかも、1990年代の「自由民とテキサス共和国 (Freemen and Republic of Texas)」などの組織が提示したものである。いずれにせよ、そのプロパガンダは、財政と税金への素朴な懸念によりも、はるかに白人ナショナリズムに通じるものがある。

ティーパーティー・パトリオッツの周辺でこれらの作業部会が開かれているという事実が物語っているのは、NC フリーダムもまた、連邦からの脱退の考えを奨励しているという重要な事実に他ならない。2010年2月、その組織は「連邦政府の専制への解決策」と題された論文を内容とするニューズレターを、会員たちに送信した。その論文は二つの解決策の概略を述べている。すなわち、「漸進的な」アプローチは、度を越した連邦政府を食い止めるために、州権および州の主権を擁護する連邦憲法修正第10条の立場をとることである。二つ目の解決策、すなわち連邦脱退は、「おそらく大部分の市民の満足の度を越えるものであるが、

しかし、依然として真剣に考慮するに値する“跳躍”であると説明する。

ちょうどティーパーティー・パトリオッツのいくつかの地方組織が武装民兵とキリスト教愛国主義を取り込んでいるように、他の地方支部は、移民排外主義および厳しい反移民政策を奨励している。ティーパーティー・パトリオッツの地方支部「メリーランド救済支援（Help Save Maryland）」は、移民の権利擁護団体のCASAの州本部の外で、抗議行動を行なっている。メリーランド救済支援は、明確な反移民の立場の組織として、2005年に設立され、現在は、ティーパーティー組織の一つである。

ワシントン州では、ティーパーティー・パトリオッツの組織は、コビントン、ケント、およびレントンの支持者たちに向けて、州と地方政府機関に連邦移民諸法の執行を支援することを求めるアリゾナ州上院提出1070号法案と同様の住民提案第1056号への署名集めを主張した。この提案はまた、すべての民間企業と公的機関の雇用主に、従業員の移民資格の「電子認証」、また多くの公共サービスの受給の申請に移民資格の認証を求めるものであった。非営利団体は移民資格の証明書類なしに就業支援を申請することが禁止されていた。運転免許については、移民資格の証明書類なしに公布することは禁止されていた。

ジョージア州ティーパーティーのコロンバス支部は、過酷な反移民法である第1070号法案が州議会で成立した後、アリゾナ州擁護の集会を開催した。ティーパーティー・パトリオッツが全国規模で行なったのと同じく、多くの他の地方ティーパーティー・パトリオッツ組織もまた、アリゾナ州の反移民立法を擁護している。

ティーパーティー運動の移民排外主義的側面については、「米国人とは誰のことか」の章でさらに論じる。

7. ティーパーティー・エクスプレス

ティーパーティー・エクスプレスは、2009年、以前から存在した保守派の活動組織である「よりよいわが国に値する政治活動委員会（Our Country Deserves

Better Political Action Committee)」により創設された。この分派は、共和党候補を支援する際の政治献金活動とともに、全国をめぐる政治宣伝バスツアーを行なっている。それは会員制ではなく、ティーパーティー・エクスプレスとその他の全国的分派との違いの一つとして、彼らが地方組織を創設あるいは支援しようとしていないことが挙げられる。

創設当初の代表であるマーク・ウィリアムズ (Mark Williams) は、市民的な政治演説から悪辣な暴言およびあからさまな人種主義へと、度を越えた発言を繰り返している。それに加えて、指導部は、他のティーパーティー組織と何度も衝突し、物議をかもし出していること、が主な特徴である。

ティーパーティー・エクスプレスと、その母体団体である「よりよいわが国に値する PAC」には、その他のティーパーティー諸分派のようなオンライン上のソーシャルネットワークは存在しない。政治活動委員会として、その団体には政治献金を行なう寄贈者はいるものの、単に登録だけを行なうことができる会員は存在しない。この相違が、そのまま他の分派と比較することを困難にしている。

「よりよいわが国に値する PAC」は、現在の選挙運動期間中に多額の政治資金を集めていた。だがそれは、2010年6月現在、連邦選挙委員会に1,508人の献金者を報告しているだけに過ぎない。

献金者たちは全国に散らばっている一方で、当該団体の本拠地であるカリフォルニア州とテキサス州に多数の献金者たちが存在する。ティーパーティー・エクスプレスの献金者たちの数で上位10都市は以下の通りである。すなわち、テキサス州ヒューストン、メリーランド州ベセスダ、テキサス州ダラス、ニューヨーク州ニューヨーク、カリフォルニア州ランチョサンタフェ、テキサス州サンアントニオ、ネバダ州ラスベガス、アリゾナ州スコッツデール、グアム島ハगतナ、そしてルイジアナ州ニューオーリンズである。

〈ルッソ・マーシュ&ロジャース社 (Russo Marsh and Rogers)〉

本報告書を執筆した時点では、「よりよいわが国に値する PAC」の委員長は、

前カリフォルニア州共和党下院議員ハワード・カルージアン（Howard Kaloogian）である。カルージアンは、2006年州下院に出馬し、対人殺傷銃器の禁止に反対して「米国政治的勝利財団（America Political Victory Fund）」の「ラリー・プラットの銃所有者たち（Larry Pratt's Gun Owners）」からの支持を集めたものの、落選した（プラットは1990年代中期の民兵運動での指導的人物の1人であった）。

当該 PAC の「選挙戦略担当主任」は、落選したカロージアン選挙運動に携わったカリフォルニア州共和党政治顧問サル・ルッソ（Sal Russo）である。ルッソは、キングス・メディア・グループ（Kings Media Group）およびルッソ・マーシュ&アソシエイツ社（Russo Marsh & Associates, Inc.）の名前でビジネスを行なっている広告会社、ルッソ・マーシュ&ロジャース社の社長である。1996年、カリフォルニア州共和党が、反アフターマティブ・アクションに関する住民提案第209号の成立を支援するため、この会社を雇用した。その後、共和党に関連するその他の数多くのキャンペーンに係るようになった。

2008年7月、2人の人物が、「減税、小さな政府、強固な国防、および強い米国の中核としての家族の強さの重視を掲げるレーガン保守主義を擁護するために」、「よりよいわが国に値する PAC（OCDB）」を創設した、といわれている。

2009年4月、当該 PAC の責任者であるジョー・ヴィルツビキ（Joe Wierzbicki）のメモにおいて、ティーパーティー・エクスプレスの計画の枠組みが明らかにされた。そのメモは、エクスプレスの組織とその他の新しいティーパーティー組織間との最初の溝を示唆している。ヴィルツビキは、「これは来るべき日に我々が議論する必要がある、慎重な取り扱いを要する問題となるであろう」、「我々は、我々の中で“仲間の外”にいると称している人々について、慎重に議論を進めなければならない。なぜなら、率直に言って、我々は、単に政治的主流派あるいは保守的主流派の一部ではないだけでなく、我々はまた、現在、“ティーパーティー”主流派の一部でもないわけである」と記した。

ティーパーティー・エクスプレスがその名を知らしめるようになったバスツア

一は、実際には、よりよいわが国による2008年「ストップ・オバマ・バスツアー」を作り変えたものであった。オバマに打撃を与えた後、OCDBはサラ・ペイリン支持の広告を担当することを含めて、ペイリンの支援を続けた。ペイリンは後に、その返礼として、ティーパーティー・エクスプレスの第3回ツアーでの二つのイベントで看板役を務めた。

ティーパーティー・エクスプレスは、スタッフ構成に関して何度かの再編成を行なっている。本報告書で述べたように、組織の代表者として、マーク・ウィリアムズに代わってエイミー・クレマー (Amy Kremer) が就任した。彼女は、以前は、当該組織の草の根および連合部門 (Grassroots & Coalition) の局長であった。ティーパーティー・エクスプレスに参加する以前、彼女は別の分派、すなわち、ティーパーティー・パトリオッツのスタッフであった。ティーパーティー・パトリオッツからクレマーを引き抜いたことは、その二つの組織の間で緊張を高めたのは、いうまでもない。ティーパーティー・パトリオッツはクレマーに対して訴訟を起こし、そして、ジョージア州裁判所は、被告に対して、パトリオッツのウェブサイト管理を返上し、メーリングリストの使用をやめ、その他に、彼女がティーパーティー・パトリオッツで勤務した期間に知り得たいかなる内部情報も利用しないことを求める判決を下した。

クレマーはティーパーティー運動中の人種差別主義の非難を断固として拒否したものの、医師であるデイビッド・マカリブ (David McKalip) が2009年7月、仲間のティーパーティー参加者たちに向けてオバマ大統領の人種差別主義的風刺画を描いたメールを送信した時、彼女はすぐに彼を擁護する立場をとった。神経外科医としてフロリダ州で開業しているマカリブの行為は、後にフロリダ州医師会から非難された。しかしながら、気分を害するEメールの送信が明らかになり、論争が巻き起こった後も、クレマーは、ティーパーティーのEメールに、「デイビッド、我々はあなたを全面的に支援し、あなたのためにここにおります。私は、一つのことを保証することができます。すなわち、我々はあなたを自分のこととして守る、ということです。あなたには我々すべてがついていま

す！」と記した。その年の10月、ティーパーティー・エクスプレス・バスツアーがフロリダ州オーランドに立ち寄った際に、マカリブは特別講演者となった。

クレマーのブログ『サザン・ベル・ポリティクス (Southern Belle Politics)』には、現大統領への中傷が多数記述されており、彼が米国生まれではなく、「彼の医療保険計画、税制、そして大規模な増税と支出を伴う政策を通じて推進される大きな政府および社会主義的諸計画を含めて、私がバラク・オバマを嫌う理由は多数ある。しかしながら、上に挙げた理由よりもより重要なのは、バラク・オバマがこの偉大な国の大統領に就任する資格を持つとは、私にはまったく思えないことである。もし彼に資格があり、そして隠すことがまったくないのであれば、なぜ、彼は出生証明書をコピーして示し、その問題に決着をつけないのか?」、といった（誤った）非難を何度も繰り返している。

「よりよいわが国に値する PAC」のスタッフの中の「代弁者」で、かつティーパーティーのイベントに多数出席している人物として、フロリダ州デルトナ出身のロイド・マーカス (Lloyd Marcus) が挙げられる。余談であるが、マーカスは、彼のウェブサイトで、自らを「生粋の (黒人) 米国人、シンガーソングライター、エンターティナー、作家、芸術家、およびティーパーティー・パトリオッツ」であると記している。そのアフリカ系米国人のエンターティナーは、2004年のジョージ・W・ブッシュの再選を支援した。彼はまた、「全国保守黒人地位向上協会 (National Association for the Advancement of Conservative People of Color)」, (のちに「全国保守的全有色人種向上協会 (National Association for Conservative People of ALL Colors)」に改名) の会長である。この団体は、わが国で最も古く最大の公民権団体である全国黒人地位向上協会 (NAACP) をあざけり、反対することに焦点を当てている。連邦選挙委員会の記録によれば、マーカスは、2009年3月から2010年5月までの間、よりよいわが国に値する PAC から顧問料として2万1,000ドル以上の報酬を受け取った。マーク・ウィリアムズがティーパーティー・エクスプレスの代表であった時期を含めて、ティーパーティーの指導者たちの中に人種差別主義者が存在するといった非難から、彼は一貫してティーパ

ーティを擁護している。

〈マーク・ウィリアムズ〉

「よりよいわが国に値する PAC」の初期の副委員長であり、ティーパーティー・エクスプレスの代表であったのが、ラジオトーク番組ホストで、「全国ラジオトーク番組ホスト協会 (National Association of Talk Show Hosts)」の前責任者マーク・ウィリアムズ (Mark Williams) である。ウィリアムズによれば、ティーパーティーは「米国を信じ、連邦憲法を詳細に理解していないかもしれないものの、しかしながらその精神はよく鍛えられている人々の集まりであり、そして彼らは米国を取り戻すと同時に一つのティーパーティーへと結集している」。

マーク・ウィリアムズは、オバマ大統領を、ナチ、半白人の人種差別主義者、半黒人の人種差別主義者、および生活保護詐欺を行なったインドネシア人イスラム教徒であると言及した。彼は、「共和党支持者だけでなく、すべての米国人が我々自身による不意の一撃計画を再編し、実施するときである。そう、“不意の一撃 (coup)” である」と述べている。ウィリアムズは、6月19日にティーパーティー・エクスプレスの代表の座を降りたことを突然公表した。

〈ティーパーティー・エクスプレス・バスツアー〉

その他の組織とは違って、ティーパーティー・エクスプレスは、当初から、「政治的に脆弱な」選挙候補者を攻撃する運動母体として計画された。さらに、ヴィルツビキが作成したメモでは、献金の呼びかけの中で、バスツアーを運営する OCDB—ティーパーティー・エクスプレスがどのようにして「ハリー・リード (Harry Reid) を敗北させる」か、「クリス・ドッド (Chris Dodd) を敗北させる」か、そして「アーレン・スペクター (Arlen Specter) を敗北させる」のか、を説明している。

ティーパーティー・エクスプレスの活動を促進するため、その組織は既存の右派組織のメーリングリストに頼った。上記のメモでは、ニューズマックス

(NewsMax), ヒューマン・イベント (Human Events), タウンホール (Town Hall), ワールドネットデイリー (WorldNetDaily), その他を含めた右派組織のメーリングリストを借用することが議論されている。連邦選挙委員会に提出された OCDB/TPE の支出報告では、ニューズマックスに18万7,340ドル、ヒューマン・イベントに9万3,800ドル、TownHall.com に3万6,206ドルを支出したことが確認できる。

メモの中ではさらに、地域の人々を活用することによって「我々の“信頼性”を高める」必要があることも議論された。

最初のティーパーティー・エクスプレス・バスツアーは、2009年8月28日、サクラメントにおいて開始された。バスツアーは全国をめぐり、ワシントン D.C. での9月12日行進に向けて、ワシントン D.C. に到着するまでの間、中西部と中南部の様々な場所とともに、ネバダ州およびテキサス州の都市でイベントを開いた。それらの集会は、政治活動委員会への新たな献金者たちを見出すと同時に、一般的にティーパーティー運動への支持を結集するものであった。最初のバスツアー開催の後、10月に入り、ティーパーティー・エクスプレスは、正式に FEC に書類を提出し、その PAC の名称を「よりよいわが国に値する PAC (the Our Country Deserves Better PAC)」—ティーパーティー・エクスプレス .org (TeaPartyExpress.org) へと変更した。

2度目のバスツアーは「ティーパーティー・エクスプレス II：審判の日へのカウントダウン」と題され、10月25日、サンディエゴで開始された。それは再びネバダ州と中部の各地に立ち寄り、その後南部のテキサス、ルイジアナ、ミシシッピ、アラバマ、およびジョージアの各州を訪問した。最後の訪問地は11月12日のフロリダ州オーランドであった。

2度目のバスツアーが終了したとき、よりよいわが国に値する PAC—ティーパーティー・エクスプレスの関心事は、8月に連邦上院議員テッド・ケネディ (Ted Kennedy) の死去で空席となった議席を埋めるマサチューセッツ州の連邦上院議員の特別選挙に向けられた。よりよいわが国に値する PAC は、その選挙

を健康保険改革に反対する住民投票にすることを望み、知名度が相対的に低い共和党州上院議員のスコット・ブラウン（Scott Brown）を支援する際に34万8,670ドルを注ぎ込んだ。2010年1月20日、ブラウンは民主党候補のマーサ・コークリー（Martha Coakley）を破って当選を果たした。ブラウンの選挙を支援する理由が何であれ、ティーパーティー参加者たちにとって、これによって「スコットの名が“世間に”知られるようになった」ことを意味した。そして、選挙戦でのティーパーティー・エクスプレスの功績が直ちに認められたのである。

それに続いて、2月、ティーパーティー・エクスプレスは、ティーパーティー・ネーションが開催する大会への参加が予期されたものの、しかし大会からは手を引き、そのため、両者の組織の間で若干溝が生じた。

しかしながら、そのちょうど2週間の後、ティーパーティー・エクスプレスは、ワシントンD.C.での保守派政治活動委員会（the Conservative Political Action Committee）年次総会で集会を開いた。この「保守派政治行動会議（the Conservative Political Action Conference, CPAC）」は、保守派活動家および政治家のために年1回開催される会議である。ティーパーティーの組織は2010年のCPAC総会で重要な役割を担い、それにはティーパーティー・エクスプレスのバスツアーによる訪問集会も含まれていた。また、2010年CPAC総会の出席団体として、極右で、陰謀に熱を上げるジョン・バーチ協会—37年の総会の歴史の中で後援団体として初めての参加—が挙げられる。

3度目のバスツアーは、3月27日、ネバダ州サーチャイト（民主党連邦上院院内総務ハリリー・リードの出身地）での大規模な集会で始まった。ティーパーティー・エクスプレスⅢは、全国各地を訪問する前に再びネバダ州の各都市を訪問し、リード上院議員への反対集会を開催した。

バスツアー中、ティーパーティー・エクスプレスは、さらに、ミネソタ州選出の女性連邦下院議員ミシェル・バックマン（Michele Bachmann）を含む候補者たちへの支援を公表した。（バックマンとテネシー州選出下院議員のマーシャ・ブラックバーン〔Marsha Blackburn〕は、ティーパーティー・エクスプレスの

要請に従い、2月のティーパーティー・ネーションの大会から手を引いた)。バスツアーは、2010年税の日ティーパーティー抗議運動と一緒に行動するため、4月15日、再びワシントンD.C.に到着した。

ティーパーティー・エクスプレスは、4月15日、ネバダ州の連邦上院議員共和党予備選挙でシャロン・アングル (Sharron Angle) への支援を表明した。4月25日、彼らはアングルの支持を内容とする2本のテレビ広告と一本のラジオスポット広告を流した。5月11日には、新聞にアングル支持の一面広告を打った。5月16日、ティーパーティーエクスプレス.com (TeaPartyExpress.com) では、アングルを支援するための「ティーパーティー・エクスプレス15万ドル集中献金 (Money Bomb)」が宣伝された。1週間の間に、その額の半分以上の8万0,910ドルが集まった。シャロン・アングルは6月9日の予備選挙において逆転勝利を手にした。

2010年5月4日、ティーパーティー・エクスプレスは反移民の論争に加わり、オンライン署名活動を行なって議論的となっているアリゾナ州第1070号法案を支持した。

ティーパーティー・エクスプレスの公式パートナーの一つに、「自由共和国 (Free Republic)」がある。それは自らを「無党派、草の根保守主義のためのオンライン上での集会場」と記述している。それはバーザーズおよび人種差別主義者にとって重要な活動領域である。彼らが自由共和国に掲示した資料には、オバマ大統領がいかなる出生証明書をも持ち合わせていないと主張するものがあり、それは2009年6月10日、ワシントンD.C.にあるホロコースト記念館で警備員を殺害した白人至上主義者ジェイムズ・フォン・ブラウン (James von Brown) により投稿されたものである。このウェブサイトではまた、オバマ大統領一家への人種差別主義的攻撃を掲示している。2009年7月、オバマの11歳になる娘マリアが、平和のシンボルの描かれたTシャツ姿を写真にとられた後、自由共和国の掲示板では、オバマ大統領夫人と子供たちに関する人種差別的な評論が取り上げられ、そこでは、「貧民街のゴミ」のような差別的表現と用語が使用されていた。掲示

板にある「娘を喜ばせるために、ミシェル・オバマは好んでサルのみきまねをする」との説明が書かれた、マリアに話しかけるミシェル・オバマの写真と一緒に掲載されていた。

自由共和国は、そのウェブサイトの第一面に、ティーパーティー・エクスプレス・バスツアーを宣伝した（自由共和国のウェブページはまた、ティーパーティー・パトリオッツおよびレジストネットへのリンク先を掲示している）。自由共和国のクリスティン・テイラー（Kristin Taylor）は、自由共和国とティーパーティー・エクスプレスを支持する人々との橋渡しをする役割を果たしている。彼はまた、反移民の自警団組織ミニットマン・市民防衛隊（Minuteman Civil Defense Corps）のために働き、フロリダ州でのティーパーティーのイベントで講演している。しかしながら、彼は、ティーパーティー・エクスプレス以外の分派とうまく仕事しているわけではない。

2010年3月22日、自由共和国に掲載された「フリーダムワークスは、民主党、メディアに譲歩するためにバスツアー中のティーパーティーを放り出すことをいとわない」と題された論文の中で、テイラーは「去年、ティーパーティー運動を自分のものとした…フリーダムワークスは、民主党およびメディアによるプロパガンダ的猛攻撃に直面し、今日、その草の根運動を放棄する様相を呈している」と述べた。

〈他のティーパーティー分派との相互の影響〉

いくつかのティーパーティー分派は、数回ティーパーティー・エクスプレスのバスツアーの公式後援団体となった。フリーダムワークスは一度目のティーパーティー・エクスプレス・バスツアーに参加した。しかし、三度目のバスツアーには参加しなかった。しかしながら、ディック・アーミー（Dick Arney）がバスツアーに参加しないことは事前に知らされていた。一部の分派がティーパーティー・エクスプレスに不満を抱いていたものの、フリーダムワークスのスタッフであるブランドン・スタインハウザーは、「バスツアーが本当によいものであると

私は現に思っている」と述べた。レジストネットはバスツアーを後援しただけではなく、組織の全国局長であるダーラ・ダワルド（Darla Dawald）はティーパーティー・エクスプレス「チーム」の一員として名簿に記載された。ティーパーティー・ネーションもバスツアーの後援団体となったものの、ティーパーティー・エクスプレスは、ナッシュビルでのティーパーティー・ネーションの大会にバスツアーでの訪問をとりやめた。

ティーパーティー・エクスプレスが予備選挙前にシャロン・アングル候補支持を公表したことをめぐって衝突が生じた後、ティーパーティー・ネーションから送信されたメールには、「ティーパーティー・エクスプレスの人々は我々の友人である。彼らは、ネバダ州サーチライトでの大規模なイベントへの参加をティーパーティー・ネーションに要請するほどである。また、彼らの戦略ではなく、彼らの精神が正しいことを我々は信じる」と記されていた。ティーパーティー・エクスプレスのエイミー・クレマー（Amy Kremer）は、ナッシュビルでのティーパーティー・ネーション全国大会（Tea Party Nation National Convention）で司会を務めた。

ティーパーティー・エクスプレスと1776ティーパーティーとの間で、相互に後援団体の関係を公式に結んだことは一度もない。しかし、1776ティーパーティーの代表デール・ロバートソン（Dale Robertson）は、彼の組織の会員たちが、三度目のティーパーティー・エクスプレス・バスツアーの開催集会に出席するため、ネバダ州へ向かった、と述べた。

それに対して、ティーパーティー・パトリオッツは、ティーパーティー・エクスプレスを「人工芝のエクスプレス（Astroturf Express）」と名づけ、その理由として、共和党主流派との結びつきと地方組織に対する支援の欠如をあげた。ティーパーティー・パトリオッツの全国責任者デビー・ドゥーリ（Debbie Dooley）は、「我々は、ティーパーティー・エクスプレスとは関係を結ばないように尽力してきた。なぜなら、彼らは、共和党、共和党主流派、および彼らのPACと緊密に提携しているからである」と『ポリティコ』紙に回答した。

二つの組織の間での競合と衝突はまた、運動資金の調達をめぐる問題でも生じた。ティーパーティー・パトリオッツは、「人々がティーパーティー・エクスプレスに寄付する際、彼らはティーパーティーに寄付していると考える。なぜなら、彼らは、それがPACであると書かれたメールの一番下の細字部分を読まないからである。また、そのことは地方の草の根ティーパーティー参加者たちに害を及ぼす。なぜなら、実際に、何度も彼らから資金を奪っているからである」と指摘する。

それに加えて、ティーパーティー・パトリオッツの中では、ティーパーティー・エクスプレスの行動によりすべてのティーパーティー組織が悪評を受けているとの意見が広がった。そして、ティーパーティー・パトリオッツは報道機関にむけて、「今年の8月28日から9月12日にかけて行なわれた“ティーパーティー・エクスプレス”によるバスツアー、および最近公表された次のバスツアーの監督責任を有する政治活動委員会（PAC）、すなわち、「よりよいわが国（Our Country Deserves Better）」が行なういかなる活動にも、直接的あるいは間接的な支援を行なわないことを確認したい」との異例の発表を行なった。問題の核心には、当時ティーパーティー・エクスプレスの代表であったマーク・ウィリアムズ（Mark Williams）により繰り返された不快な発言があった。その発表は「ウィリアムズのふざけた行為が、ティーパーティー運動を人種差別主義者、過激派グループと表現しようとする主要なメディアの術中に陥る」ことを指摘していた。

NAACPの2010年大会の開催中に、ティーパーティー・パトリオッツによる予想は、具体的な証拠を示す現実となった。

〈マーク・ウィリアムズの発言録〉

2009年、ティーパーティー・エクスプレスのマーク・ウィリアムズ（Mark Williams）は、著作『右派と左派の戦いではなく、善悪の戦い—社会主義的政策課題を暴露する（*It's Not Right versus Left, It's Right versus Wrong: Exposing the Socialist Agenda*）』を自費出版した。2010年、彼はその著作の題を『アメリカを

取り戻す：同時に一つのティーパーティー（Taking Back America: One Tea Party At A Time）]に変えて再び出版した。ウィリアムズの著書は、彼が2010年7月に「ティーパーティー連合（Tea Party Federation）」から追放されるずっと以前に、彼の人種差別主義と偏見を明らかにし、彼の見解がティーパーティーの幹部たちの中では周知のことであったことを示していた。単に、そのような内容が明らかにされるだけだとしても、彼の著作から得られる知識は、ティーパーティー運動を理解する上で欠かせない。

「一部の人々は投票を行なうべきでない」と題された章では、ウィリアムズは、投票は市民の権利でもなく義務でもないと主張する。それどころか彼は、「時に、我々の一部の人々が投票を行わないことが、我々にとって最もよい選択となることがある」、と記している。

ウィリアムズは、「オバマ氏が米国生まれの米国民ではないことは公然の秘密」であると述べている。同様な見解を述べたいいわゆるバーザーズの中には、ウィリアムズを明確に支持している記述もある。それに加えて、彼は、「概してオバマがその肌の色ゆえに当選を果たしたことから得られるものは、オバマの発言の内容を伴わない空虚さの明白な帰結である」、とも断言している。

いわく、「修正された奴隷制度を制定する可能性のある最初の黒人大統領というみごとな皮肉は、私には効かない。私が“修正された”と述べたのは、アフリカ系の黒人たちが綿農場で彼らの“仕事”を辞めることはできなかった一方で、我々には、少なくとも今のところ、依然として我々の仕事を辞める自由、また我々の選択に関与するかそれを渴望することを選んだ残りの愚か者たちに助けてもらう自由がある」。

「いわゆるオバマケアは本質的に、優生学、ジェノサイドもしくは多分に民族浄化の一あるいは三つのすべての側面を有し、どのように実施され、展開するのか、誰が管理するのかによる」。

「指導者を選んだ集団は、彼らの親愛なる指導者と明らかに異なっている。彼は一副大統領候補時のジョー・バイデン（Joe Biden）の発言が有名であるが—

“クリーンで明快に意見を述べる人物”である。クリーンでなく、ものが言えず、残忍な彼らは、自由な思想を抑圧した水晶の夜（Kristallnacht）の続きを行なう際に用いられる、将来の親衛隊（Schutzstaffel）である。彼は人種間で、階級間で、米国の中で、争いを起こそうとする。（私は意図的にドイツ語を用いた）。

「オバマ-リード-ペロシおよびその同僚たちは、食物連鎖を見るように、彼らの残飯を、計画で依存強制され、かつ隊員養成のためにわざわざ設けた重税負担を強制された人々へと送ってよこす、食客エリート集団である」。

「バラク・オバマと彼の仲間たちは、七つの大罪を体現する。すなわち、思いつ上がり、貪欲、嫉妬、怒り、肉欲、大食、および怠惰である。その男と周りにいる人々、そして彼と手を結んでいる人々を突き動かしているものは、彼の世界観が間違っていることに弁解を認めない自己中心的なうぬぼれであり、それは、彼が異論は許さないとする、頻繁に抱く怒りの決意を阻止しようとすることも認めない。彼のような人間は、彼の仲間たちの嫉妬、貪欲、怠惰、および大食を利用し、促すことによって力を得ている。いわゆる一般的なりベラリズムを逸脱し、独裁的な社会主義へと墮落するオバマ大統領は、怒りの罪に問われる」。

「私は、我々が“イスラム教”と呼ぶ7世紀に生まれた危険な教団の1300年以上もの痛ましい歴史とその経緯について、詳しく言及するつもりはない。その歴史には、数多くのバイセクシャルの人々—奇妙にも同性愛を嫌悪し、精神的に異常な幼児性愛をもつ人々が存在したと述べることで十分である。彼らは、砂漠に閉じ込められた生活の中で、この歪んだ、暴力的なイデオロギーをあらわにし、生まれつきの妄想と何世紀もの間にわたる無知によってその数を増やしたのであった。いかにして敵が私の敵となったのかを詳しく知ることに、私はほとんど関心がない。ただ私は彼に、自制すること、もしくは消え去ることを望むだけである」。

マーク・ウィリアムズは、数ヶ月前、多くの仲間たちの前で、マンハッタン南端部にあるイスラムセンター問題に言及した。5月、その文化センターの問題を彼のブログに掲載した際、ウィリアムズはイスラム教徒が「テロリストの偽りの

神」を崇拝していると断言した（そのばかげた内容が広く非難された後、彼は結局その見解についてヒンズー教徒たちに謝罪するはめになった。ただし、イスラム教徒に対する謝罪は一切なかった）。

それに加えて、彼は、「イスラム教は、我々の中で飼いならされるべき、あるいは地上の片隅に追いやられるべき危険で野蛮な文化である」とも述べている。

8. 人種主義，反ユダヤ主義，および極右武装組織の影響

本章では、特別報告として、世論調査の結果を集め、ティーパーティーの一部の指導者たちによる主要な人種差別的発言の例を取り上げ、よく知られた反ユダヤ主義者および白人至上主義者たちにティーパーティー参加者が講演の機会を与えている事例を示し、その上で、白人愛国者組織がティーパーティーの幹部の中に新たな人材を求める試みを分析する。

ティーパーティーの指導者たちは、彼らの運動の一部分である人種差別主義、キリスト教愛国主義、および白人至上主義に話が及ぶことに不快感を示している。いくつかの注目すべき事例では、ティーパーティー集会への講演者や芸能人たちの出席のように、まるで「これは、より多くの人種が加わることを望む人種的に多様な運動である」といわんばかりに、人種の多様性がとくに強調されている。このような主張を行なう少数の指導者たちの中でとくに知られているのは、ティーパーティー・エクスプレスに顧問として雇われていると本報告書で触れたロイド・マーカス（Lloyd Marcus）である。

それにもかかわらず、ティーパーティーのイベントで掲げられる「米国はキリスト教国家である」と書かれた連合国軍旗、掲示カード、およびオバマ大統領への人種差別的な風刺画が、地方とワシントン D.C. の両会場で散見されることは否定できない。医療保険法案をめぐる論争の中で、アフリカ系米国人である連邦下院議員に吐きかけられた悪意のこもった言葉（や唾）に、人種差別主義的メッセージがこめられていたのは明らかである。すべてのティーパーティー参加者は意識的な人種差別主義者であるということが本報告書の主張ではない。しかしな

がら、上述の証拠が雄弁に事実を物語っている、といわねばならない。

〈人種差別主義者へ講演の機会を与える〉

ティーパーティーの指導者たちは、様々な集会で、名の知られた人種差別主義者および反ユダヤ主義者たちに講演することを促し、またその機会を提供している。例えば、恥ずべき「Nワード」を掲げた1776ティーパーティーの代表者デール・ロバートソン (Dale Robertson) は、ワシントン州で放送されているトーク番組ホストのローリー・ロス (Laurie Roth) 博士とともにホストを務めるティーパーティー・ラジオの番組のゲストとして、マーティン・「レッド」・ベックマン (Martin "Red" Beckman) を招いた。ベックマンは25年以上にわたって、反ユダヤ主義の著作を執筆し、民兵組織の擁護を行なう人物として知られている。1994年、ベックマンは、税金納入を拒否したことを理由に、IRSによってモンタナ州の彼の所有地から追い出された。彼は現在、ワシントン州の南西部に住んでいる。

ベックマンを紹介する際、ロバートソンは「レッドはすばらしい人間だ。私が生まれるずっと以前から、彼は実際にこの戦いを指導してきている。レッドには数多くの著作があり、その一つが『心の壁 (Walls in Our minds)』、他に『なぜ民兵か (Why the Militia)』がある。だから、ローリー、銃の所持が憲法上認められた権利であることについて、彼と君の意見がぴったりと一致するということがわかるだろう。また、彼は連邦憲法の大家で、国民としての我々の権威を弱めるために連邦政府が行なってきたことを良く知っている。彼を番組で紹介できたことはうれしいことだ」と述べた。

番組のおわりに、ベックマンは彼の著作を宣伝し、そして「デールが彼のウェブサイトの本について掲示を行なうことを話しており、私はそれにまったく異論はない」ことを明らかにした。それに対して、ロバートソンは「私は彼が公刊した本を読んできた。それらを読むべきだ。一度読めば、まったく我々がわが国の政府にだまされておられ、そしてわが国を取り戻すために可能なことは何でも行な

う必要があることを理解するだろう」とつけ加えた。

その他の事例として、ロバートソンは、1776ティーパーティー出会いの場（1776 Tea Party Meet Up）というウェブサイトで、ジョン・ウィーバー（John Weaver）牧師を支持した点が挙げられる。ロバートソンによれば、「ジョン・ウィーバーは、優れた見識を持つキリスト教指導者で、彼は連邦憲法の権利に聖書の基礎的部分を見出している。それらの権利の行使を怠ってきた教会は、それゆえ衰退の道を歩んでいる。連邦憲法は、神および道徳的な人々の礎に築かれており、それらが無ければ、わが国において、教会と国民は抑圧的な連邦政府の犠牲となるであろう」。ロバートソンはまた、2009年8月29日にテキサス州マグノリアで開かれたウィーバー牧師の修養会を宣伝するため、この出会いの場のサイトを活用した。そのサイトはまた、ロバートソンがその会に出席したことを記している。

ジョージア州フィッツジェラルド出身のウィーバーは、超南部連合国主義者たちと、いわゆるクリスチャン・アイデンティティ（Christian Identity）の教義を伝道する人々とに幅広いつながりをもつ。彼は、「南部連合国軍退役軍人子孫の会（the Sons of Confederate Veterans）」の前司祭である。彼は、1998年と1999年に、ミズーリ州ブランソンで開催された「クリスチャン・アイデンティティ」集会で講演を行っている。彼独特の神学理論によれば、ユダヤ人たちは悪魔の勢力（あるいは悪魔それ自身の化身）であり、有色人種は人間以下だ、と見なされる。それとは対照的に、北ヨーロッパの白人たちは聖書に書かれたイスラエル王国の子孫であるとみなされ、そして米国は彼らの「約束の地」であるととする。この理論は、イギリス人イスラエル子孫説と知られる神学理論に由来する。ウィーバーは彼独自の見解を“自治領主義（Dominionism）”の一つの変種と説明するものの、彼の論文「神の主権と民政（The Sovereignty of God and Civil Government）」は、「イギリス-イスラエル世界連盟（British-Israel World Federation）」から出版された著作目録に掲載された。そのために、これは、キリスト教原理主義の最も過激な右派へとウィーバーを追いやるはめになった。

ティーパーティーの講演で反ユダヤ主義をあからさまに打ち出したのは、2009年7月のイベントであった。ワシントンD.C. のアッパー・セネイト・パークで開かれた集会には1,000名が集まった。講演者の顔ぶれは、いくつかの税制改革団体、フリーダムワークス、およびトーク番組ホストたちであった。また、その日、バンドのポーカーフェイスが登壇し、聴衆からの拍手は別にして無報酬で曲を演奏した。ペンシルバニア州リーハイバレー出身のバンドは、反ユダヤ主義であるとの評判であった。リーダーのポール・トペト（Paul Topete）は、公の場で、ホロコーストが捏造であると主張し、米国でホロコースト否定を唱える重鎮のウィリス・カート（Willis Carto）が出版する定期機関誌『アメリカ・フリー・プレス（*America Free Press*）』に寄稿している。トペトによれば、「ロスチャイルド家が、キリスト教を基礎とする文明を衰退させるため、1776年にイルミナティ教団（Illuminati）を創設した」。彼らが抱く偏見もあって、2006年、ラトガース大学で、また2007年にはロン・ポールの選挙運動イベントでの公演を断られた。しかし、彼らは、何ら疑問も抱かれずに、ティーパーティー集会で公演した。

より巧妙なのは、一般の活動家たちが、ウェブページに投稿する際、反ユダヤ主義的なレトリックの利用が普通になっていることである。例えば、カンザス州ハッチンソンのある女性は、最近、ソルトホークママ（salthawkmom）という名前で、ティーパーティーのウェブサイトの掲示板にメッセージを投稿した。ここでは、「世界の金融を支配するイルミナティ・ヘブライ神秘主義の銀行家たちおよびフリーメイソンたちと呼ばれる国際的カルトは、その目的として人類の墮落と奴隷化を掲げる」と。「イルミナティ・ヘブライ神秘主義」の用語はジョン・バーチ協会の支持者たちの間で広まっており、また、中西部および南部でのティーパーティーの中で活動しているより過激なキリスト教愛国主義的な人々の間でも広まっている。

その他の事例を挙げるなら、2009年4月、サン・マテオで、カリフォルニア州共和党委員長は、ティーパーティーのイベントを宣伝する際に使われた反ユダヤ主義的描写について、「我々は、近日行なわれるイベントの宣伝の際に、反ユダ

ヤ主義的な表現を用いることを強く非難する」との声明を発表したことである。

「この国はキリスト教国家である」と主張する掲示カードは、数多くのティーパーティーの抗議行動の一部で見られ、また、とくに、2009年9月、ワシントンD.C.で行なわれた大規模なデモ行進の中で数多く見られた。これは必ずしも驚くにあたらない。なぜなら、いわゆるキリスト教右派と常に連携する組織が、この運動の当初から参加していたからである。例えば、「アメリカ家族協議会 (American Family Association)」は、2009年7月に彼らの出身地で抗議行動を行なうために、1,500名以上の運動員を登録した。

ミシシッピ州トゥーペロで、ドン・ワイルドモン (Don Wildmon) 師によって創設されたこの組織は、当初、「品位を求める全米連盟 (National Federation for Decency)」として知られていた。それは、テレビ番組の登場人物が「反キリスト教的」であることに反対し、「サタデー・ナイト・ライブ (Saturday Night Live)」と「ロザンナ (Roseanne)」といったテレビ番組のスポンサー会社の不買運動を組織した。ディズニーへの不買運動も支援しており、その理由として、「米国の家族への攻撃」を挙げた。その他に、当該組織は、キリスト教の偏った解釈を法律に挿入しようとした。

この組織の会員たちは、2010年に入り、継続してティーパーティーのイベントに参加し、それらを指導している。とくに、ケンタッキー州アメリカ家族協議会の代表フランク・サイモン (Frank Simon) は、ケンタッキー・ティーパーティーの責任者に就任し、また地元の新聞によれば、ルイスビルでのティーパーティーのイベントが同性愛を訴えるものになるように計画した、といわれている。

〈白人国家主義者たちの参加〉

2009年4月15日に最初のイベントが開催された直後に、ティーパーティーの抗議行動は白人国家主義者組織およびそのネットワークの会員たちを魅了した。一つの運動として白人愛国主義は、白人至上主義に関するわずかに異なった二つの見解を明らかにしている。一つは、米国の中で、白人、黒人、および有色人種は

一緒に住む。しかし、白人の支配を確立し、有色人種のための公民権法と投票権は取り消す。他の一つの白人愛国主義の見解は、崩壊し、分断された米国から土地を分離し白人だけの共和国を作る、というものである。強硬な白人愛国主義者たちは、自らとこの国の大多数の白人たち、並びに単純に人種差別主義あるいは人種差別の主張を行なう人々をを区別するため、「人種差別的現実主義者」および「自覚した白人たち」の類の用語を使用している。

2009年7月4日のティーパーティー抗議行動への参加の準備をするにあたり、国家社会主義者たちとその他の白人至上主義者たちは、白人国家主義者による数多くのウェブサイトの中で最も規模が大きく、最も幅広いアクセスを誇るストームフロント.org (Stormfront.org) において、討論スレッドを立ち上げた。彼ら自身と人種差別主義を意識しない大多数のティーパーティー参加者たちとの違いを強調するものの、その一方で、ある投稿者は、「我々には、一般大衆に向けて、その運動に関連するような暫定的に範囲を広げた跳躍が必要だ。ティーパーティーに参加するそれらの米国人の手を取って導き、彼らが人種差別主義へと向かって、這い歩くことから自分で立ち、そして歩いていくように手助けしようではないか」と主張した。

このスレッドに投稿されたもののいくつかは、丹念に考えられたペンネームと挿絵一人種間での闘争の小説『ターナーの日記 (Turner Diaries)』の作者としてよく知られ、国民同盟 (National Alliance) の創設者である故ウィリアム・ピアース (William Pierce) の挿絵が数多く掲げられており、そこには、ほぼ漫画に似た画面が見られる。それにもかかわらず、その討論スレッドでは、参加者との接触について極めて明確な方法で話し合われた。ある組織は、彼らのイデオロギーを示すカギ十字あるいは他のシンボルをつけた道具を身につけないことを決めた。彼らは、白人の抗議者として南部連合国戦旗と、より一般的な他のシンボルを携えていた。さらに、彼らは、政治的メッセージの調子を比較的抑えたリーフレットを配布する計画を立てた。その他の組織の考えは若干違っていた。一部の人は、人種差別主義の強さをスライド式で分けた、様々な内容のプロバガンダ

宣伝用紙を用意した。彼らは、相手のティーパーティー参加者一人ひとりを押し測り、それに応じて資料を手渡したのである。

これらを比較対照する中で、彼らの中に存在する政治性を隠す必要はまったくないと主張する運動員も存在した。彼らは、「私は、前回フェニックスで開かれたティーパーティーで WN（白人国家主義）的文学作品を配った」と述べた。「私は、7月にある集会でまた配るつもりだ。これは時期的にも場所的にも適切だ。予算が限られている人々には、グループあるいは組織の住所を記した名刺カードを作ることを薦める。常に笑顔で接しよう」。

このストームフロントのサイトでの議論の中で認められたことは、極右のネオナチと常に行動をとともにしている白人国家主義者たちの一部が、「保守派市民評議会（Council of Conservative Citizens, CofCC）」により一般的に採用されている一連の戦術を採用したことである。

保守派市民評議会は、南部と中南部における最も大規模な支部をセントルイスにかまえており、そして、この国で最大規模の白人国家主義団体であり、また、ティーパーティー運動の中で最も積極的に活動を行なっている。1950年代および1960年代に、ジム・クローによる人種隔離を擁護するために戦った「白人市民協議会（White Citizens Councils）」直系団体である保守派市民評議会は、米国が白人キリスト教国家である、もしくはそうであるべきだ、バラク・オバマと黒人たちは、総じて白人たちを抑圧している、との見解を奨励している。評議会の幹部指導者たちの中には強硬な反ユダヤ主義者が存在するものの、評議会自体は、ストームフロント.orgの人々と同じような国家社会主義者たちを鼓舞する露骨な反ユダヤ主義的陰謀論のようなものを主張していない。

評議会によるティーパーティーへの慎重な接近方法が、白人国家主義者たちの間に強い影響をおよぼしている兆候として、ある投稿者は、「私は、ナチの格好をした人種差別主義的民兵として描かれることなく、白人たちを表現する保守派市民評議会の方法が最も良いものであると思う。私は保守派市民評議会の会員ではないが、彼らのやり方が最も効果的な接近方法の一つであると思う」、と述べ

ている点などが挙げられる。

評議会の定期タブロイド紙『市民情報者 (Citizens Informer)』, それからウェブサイト, www.cofcc.org を通じて, 保守派市民評議会は, ティーパーティーの抗議運動の主導と推進の両者を行った。ミシシッピ州では, 当該団体は, 2010年3月9日にフロウッド市庁舎で開催された「ミシシッピ・ティーパーティー」, 4月17日の州議会議事堂での「ミシシッピ自由行進 (Mississippi for Liberty March)」, 2009年10月31日, 北東ミシシッピ支部が後援し, リプリーのティーパー郡裁判所で開催されたハロウィーン・ティーパーティーを宣伝した。

フロリダ州では, フロリダ西海岸支部が, 2009年9月12日に開催され, およそ1,500名が出席したクリスタルリバーでのティーパーティーの会場で, 大量の会員申請書とともに3箱分のタブロイド紙を配布した。フロリダ州選出の共和党下院議員ジニー・ブラウン・ウェイト (Ginny Brown-Waite) が集会で演説を行なった。2010年1月16日, 4,500名が出席したシトラス郡のティーパーティー (集会) では, 同支部は, 「出席者たちを興奮させ」, そして2箱分のタブロイド紙と250枚の評議会の名が入った名刺を配布した。

これらの, あるいはその他の同様な活動にもかかわらず, 保守派市民評議会は, ティーパーティーの最終的な目標について語ることを躊躇している。肯定的にみれば, 団体の指導者の1人は, 「何千何百という白人たちが勇気を奮って連邦政府に反対するという事実は驚くべきことだ」と述べた。その一方で, 彼は, 「人種差別的な勢いとその運動に政治性を与えることを拒否するため, ティーパーティーの活動を阻害する否定的な傾向」について記した。彼は, 「この革命の将来は, それが何であれ, 熱心な白人たちにかかっている」と結論づけた。税制および財政赤字についてまったく触れないことは, すでに本章で分析したところである。

ティーパーティーの中で最も熱狂的な白人国家主義者の1人が, ビリー・ジョー・ローパー (Billy Joe Roper, Jr.) である。アーカンソー州のルッセルビル高校の元教師ローパーは, レジストネット・ティーパーティーの登録会員である。彼

はまた、アーカンソー州知事選挙に向けて投票用紙記入候補として立候補している。

ローパーの見解はきわどいものである。白人国家の創設に、またユダヤ人と有色人種の放逐と殺害の必要性を説くことに尽力した組織「国民同盟 (National Alliance)」において一時期、指導者であった彼は、その創設者ウィリアム・ピアースへの崇拝を続けている。ピアースの人種間闘争のテロリズム小説『ターナーの日記』は、オクラホマ州連邦政府ビル爆破犯のティモシー・マクベイ (Timothy McVeigh) により世に知られた。ローパーは、2000年に、その組織の会員責任者代理に就任し、そしてウェストバージニア州の本部に勤務した。ピアースが2002年に死去した際、ローパーは以下の声明を発表した。すなわち、「私は、彼（ピアース）と、今後何百年、何千年後に、我々の人種の偉大な人物たちの1人として、ジョージ・ワシントン、アドルフ・ヒトラーと一緒に、白人の子供たちが彼の名前を教わるようになることを、私の人生を費やして最善を尽くすことを約束した」。

ローパーの決意は変化しなかった。だが、彼はアーカンソー州の故郷へ戻り、そして彼自身の組織「白人革命 (White Revolution)」を設立した。2004年5月、白人革命による集会の一つが、カンザス州トベカで開かれた。その集会は、ブラウン対トベカ教育委員会事件、教育におけるジム・クローによる分離差別を違憲とした1954年連邦最高裁判決の記念式典に抗議するために開催された。その抗議行動に、「アーリアの国民たち (Aryan Nations)」を設立したリチャード・バトラー (Richard Butler) も加わった。その際ローパーは、以下のような掲示カードを掲げたのである。すなわち「分離でもなく、依然として平等でもない」と。

ローパーは、今も白人革命の指導者であり、より多くの支持を集めるための試みとして知事選挙も利用している。ローパーが投稿した「選挙運動報告」によれば、彼は、5月、バクスター郡で週末にティーパーティー参加者たちと会合を持った。マウンテンビューでは、彼は、「伝統的な保守的価値観をもつ愛国的なアーカンソー人のための候補者として」、フォークコンサートで聴衆に紹介された

のである。

2009年7月4日のルッセルビルで開催されたティーパーティーのイベントで、ローパーの仲間たちは「不法移民」に反対する掲示カードを掲げ、信条を包括的に述べたリーフレットを配布し、そしてティーパーティー解散後、自分の抗議行動のために戻っていった。ローパーのレジストネットの会員ページは、彼がティーパーティー組織のほかの会員たちとともに管理している継続的な討論サイトであった。しかし、ティーパーティー参加者たちからの彼への反応は不明瞭である。ある場合には、彼は避けられ、またあるときは、彼が捜し求めているもの—彼の運動に加わる数名の若者を見つけている。

ローパーによるティーパーティーの活動を取材した『カンザス・シティ・スター (Kansas City Star)』紙の報告、そしてリトルロック・テレビニュースの報告の後、その地域のティーパーティー参加者たちは、彼を知らないと述べた。レジストネットは、ローパーのウェブサイトを取り下げた。その結果、ローパーは選挙運動でティーパーティーを利用することができなくなった。しかしながら、彼は、投票用紙記入候補としてあきらめてはおらず、また、ティーパーティーの支持者たちの票を獲得する活動を続けるとしている。

デビッド・デューク (David Duke) のティーパーティーへの関与は、ティーパーティーの内実というよりも、むしろ以前にクー・クラックス・クランの会員であった人物が用いた無意味な便宜主義を明らかにしている。彼は、「ティーパーティーへのメッセージ」という10分間のビデオメッセージをインターネットで放送した。デュークは、ティーパーティー参加者たちと「建国の父祖たち」に敬意を表しながら「メッセージ」を話し始め、最後は彼がいつも行なっている「シオニストたち (Zionists, ユダヤ人の意)」への強い非難を話して終わった。数十年以上、デュークは新たな機会が生まれるたびに、所属する組織を変えてきた。しかし、彼は、その国家社会主義的イデオロギーの中核部分を決して放棄することとはなかった。

つい最近では、デュークは、世界を飛び回るために時間を費やしていた。すな

わち、フランスでは、デュークは、反移民の立場を取る「国民戦線（Front National）」の指導者、ジャンメル・ルペン（Jean-Marie Le Pen）と記念撮影をしている。ロシアでは、極右政党党首のジリノフスキーと1995年に会談し、その結果、2002年にモスクワで開かれた「反シオニスト」大会への出席の機会を得た。同年11月には、彼はバーレーンでの集会で講演した。2006年には、イランで行なわれたホロコースト否定大会に出席し、その会場で、彼は「勇敢」で「洞察力がある」アフマディネジャド大統領に礼を述べた。その後、2009年、デビッド・デュークは、チェコ共和国において、突然の国外退去を命令された（後に告訴は取り下げられた）。

デュークは、（2012年）大統領選挙共和党予備選での選挙運動に向けて、潜在的な支持の状況を検討するために、1年間の講演旅行を行なうと発表した。この点について、今後、新たな支持者たちからの献金を求めていくと宣言すること以上の何かを求めていると理解するべきでない。彼は、彼が過去になした成功—ルイジアナ州議会選挙において、2度、大多数の白人票を獲得したこと—に近いことを再び行なうようには思われぬ。しかしながら、その行動が示していることは、熱心な白人国家主義者たちがティーパーティー運動を、人種差別主義者たちによる人材発掘の場であると見なし、しかもイデオロギー的により洗練された白人国家主義を支援する可能性のある人々であると見なす、一つの兆候であることだ。

このようなティーパーティー運動が有する多様な政治的性格の中で、保守的市民評議会の活動、ストームフロント.orgの掲示、および他の白人国家主義者たちは、包括的に、しかも一つの基準として理解される必要がある。それと同時に、多数のティーパーティー指導者たちはその事実を認めないという点も示されている。

〈リチャード・マックと民兵組織〉

「サウスイースト・ミシガン・ボランティア・ミリシア（Southeast Michigan

Volunteer Militia)], オクラホマ州の「ビリー・ヒル・ミリシア (Billy Hill Militia)], および解散した「ノース・コースト・ミリシア (North Coast Militia)」を含む, 自らを民兵組織であると称する地方の諸組織は, ティーパーティー・パトリオッツと提携していた。ティーパーティー・パトリオッツと提携するその他の組織は, 積極的に民兵組織の拡大を試みた。例えば, 「ポカテロ・ティーパーティー (Pocatello Tea Party)」は, 「我々に国家民兵 (the State Militia) が必要な10の理由」を宣伝した。それが掲げる理由とは, 「文化的な崩壊, 墮落, および解体」(「多元主義」と「多文化主義」を含む), 「不法移民の侵略」, 「独立宣言を打倒することを目的とする陰謀」, および「連邦政府の過大な財政的責任」である。ミズーリ州スプリングフィールドでは, 9.12ティーパーティー組織が参加者に向かって「SW ミズーリ・ミリシア」への加入を勧めていた。

民兵による影響のその他の兆候として, ティーパーティーの関連イベントにリチャード・マック (Richard Mack) が常に参加している点が挙げられる。そのことは, ただ単にティーパーティー・パトリオッツ所属の人々が, 以前に言及していたという理由からだけではない。

アリゾナ州グラハム郡で以前保安官を務めた (1987年-1997年) マックは, 1995年, ブレディ法 (Brady Bill) の施行に関して連邦政府を告訴した後, 初めて注目を浴びるようになった。1990年代中ごろに, 彼は, 民兵の仲間内で人気のある講演者となった。実際, 彼は, 彼の出身地以外の場所で多くの時間をすごしたことも手伝って1996年の予備選挙に敗北し, その地位を失った。マックはその間に2冊の本を執筆あるいは共同執筆し, 民兵式のやり方について「新しい世界秩序を支持する人々は身を隠しており, 彼らの計画を実行するために積極的に活動している」, と述べた。マックの見解では, 悪魔は毎日陰謀を実行に移している。また彼は, 他のキリスト教国家主義者たちと同様に, 「裁判所が判断する教会と国家の分離は愚行であり, 作り話であり, そして偽りである」, と主張した。それに加えて, 彼は, 1950年代の人種差別主義者を思い出させる言葉, あるいは, ティーパーティー・エクスプレスの前代表マーク・ウィリアムズが NAACP に言

及した際に用いた言葉で、「ジェシー・ジャクソン（Reverend Jesse Jackson）師のような人たちと NAACP は、アフリカ系米国人たちを奴隷にするために、すべての南部農園主たちが一緒になって行なった以上のことを実践している」と述べた。

最近では、「宣誓の守護者たち（Oath Keepers）」の会員として、マックは自分を、1990年代と同じく、連邦憲法の擁護者とみなし、さらに郡保安官をすべて他の法執行機関の最高機関とすることを主張している。たしかに彼は、ティーパーティーのイベントで財政政策、税制、および連邦政府の赤字の話には触れていない。だが、彼は、ティーパーティーの中では最も人気を集める講演者の1人である。

カリフォルニア州の四つの都市にあるティーパーティー組織の連合体である「ノース・バレー・パトリオッツ（North Valley Patriots）」は、2010年1月での集会で、マックの参加を支援した。彼は、7月10日にそれに応じた。シルバースティ・グラント郡・ティーパーティー・パトリオッツは、ニューメキシコ州シルバースティで2010年3月1日に開催された集会へのマックの出席を支援した。5月29日、テキサス州テイラーで、「テイラー・ティーパーティー（Tyler Tea Party）」と「東テキサス憲法同盟（East Texas Constitutional Alliance）」が開催したイベントにおいても、彼は講演している。今年夏に開かれたその他のティーパーティー関連イベントについていえば、彼はフロリダ州サラソタでのイベントに出席している。

〈人種差別主義者と医療保険改革〉

医療保険改革法案は、ティーパーティーの参加者にとって一つの発火点であり、2009年8月の各地での「市庁舎」集会において、民主党連邦議員たちを沈黙させるための一致した行動で始まった。続く11月には、医療保険法案にねらいを定めたティーパーティーによる抗議行動の中で、連邦下院議長ナンシー・ペロシ（Nancy Pelosi）の事務所に不法に侵入しようとしたことを理由に、10名が逮捕

された。2010年3月、法案が成立間近となるにつれて、強硬な勢力が暴力に訴えるようになった。1990年代に民兵の一員であったアラバマ州出身のマイク・バンダーボウ（Mike Vanderboegh）は、彼のブログを読んだ人は誰でもよいから民主党議員の家の窓を割るよう促し、「今すぐに割れ。石で割ってしまえ」と述べた。この呼びかけの結果、数名の連邦下院議員の事務所のガラスがレンガによって割られた。ワシントン州では、連邦上院議員のパトリア・マーレー（Patricia Murray）への再三にわたる殺人脅迫を告発された男が、4月1日に開かれたあるティーパーティーのイベントに少なくとも一度は出席していたことが明らかとなった。ただし、彼は、自分をティーパーティー支持者である、と述べてはいなかった。

2010年3月20日、連邦下院議員の小さな一団が、医療保険法案の票決のために議事堂へと歩いていた時、そばにいたティーパーティーの抗議行動を行なう人々が罵声を発した。「法案を葬れ」というシュプレヒコールが、人種差別主義的罵声に変わり、議員たちの名前を一斉に叫んだ。マサチューセッツ州選出の連邦下院議員バーニー・フランク（Barney Frank）は「ファゴット」と叫ばれた。ジョージア州選出の民主党下院議員ジョン・ルイス（John Lewis）は「Nワード」を浴びせられ、そしてミズーリ州の民主党下院議員エマニュエル・クレバー（Emanuel Cleaver）は、唾を吐きかけられた。クレバーは、自分の名を「一斉に」叫ばれたと述べた。その特定のイベントでの悪意と人種差別主義は、後に、いかなる類のそのような人種差別主義的で偏見に満ちた名前を投げつけることなどなかったと主張したティーパーティーの指導者たちなどにより一層広がった。その明白な出来事を否定した人々の中には、連邦議会でティーパーティー議員連盟を立ち上げたミネソタ州選出の共和党下院議員ミッシェル・バックマン（Michele Bachmann）もいた。

〈NAACPによる決議に対する反応〉

2010年7月に開催されたNAACPの全国大会の総会では、ティーパーティーの

幹部たちの間でいかなる人種差別主義も認めないことを、良識あるすべての人々に要請する決議を採択した。その決議の中では、一般の人々とティーパーティー参加者たちの間では人種差別的正義の争点に関して意見の相違が見られることを記しているものの、すべてのティーパーティー参加者たちが自覚した人種差別主義者であるとする分類が行われたわけではなかった。

その決議文が採択された直後、NAACP 全体および全国に存在する各支部には、匿名での殺人脅迫がなされ、NAACP のサイトに向けて大量の暴言メールが寄せられた。この決議文に対する様々なティーパーティー組織の様々な反応は、この種の異議申し立てに反発する彼らのやり方を知る絶好の機会を提供した、といえる。多くの事例の中で、すべてのティーパーティー参加者に向けられた大雑把な「攻撃」であるとして、恐らく意図的に、決議文を誤解していたものもあった。それらの事例の中では、ティーパーティーの幹部たちの中にはいかなる人種差別主義者も存在しないという反発が数多く存在した。いくつかの事例では、NAACP それ自体が人種差別主義的であるとか、あるいは、「人種差別主義」の用語があらゆる真の意味を失った、と主張するものもあった。

ティーパーティー・エクスプレスの指導者マーク・ウィリアムズの場合、彼は、より不快で人種差別主義的声明を自分のブログに掲載する機会として利用した。ウィリアムズにはすでに、オバマ大統領が「生活保護詐欺が明らかになったインドネシア人イスラム教徒」であるとの主張を行なうなど、数々の前科があるということに注意すべきである。NAACP による決議文の後に書かれた、全体的に黒人を、とくに NAACP をけなした彼のいわゆる風刺は、目新しいものではなかった。それにもかかわらず、すでに本報告書で述べたように、彼の「風刺」により、結果的に、彼はティーパーティー・エクスプレスの指導者から除名されたのである。それにもかかわらず、エイミー・クラマーが後に行なった声明の中では、その立場は不明確であった。すなわち、「…マーク・ウィリアムズは、状況や立場がなんであれ、そのつど我々の代表として発言したに違いない」と。

それとは対照的に、ティーパーティー・ネーションは、以下のような声明を発

表した。すなわち、「ティーパーティー運動は、人種差別主義的ではない。ティーパーティー・ネーションと多くのその他の組織は、人種差別主義および人種差別主義者たちを拒絶してきた」と。その声明はまた、マーク・ウィリアムズによる発言を「多くの人々が人種差別主義であると受け止める議論的となるブログである」と述べたものの、ティーパーティー・ネーションの指導者たちが、実際にウィリアムズの発言が人種差別主義的であると思うか否かについては答えが寄せられなかった。おそらく、ティーパーティー・エクスプレスの指導者たちを明快な表現で評価することを躊躇したのは、つい前年の5月に、その二つの組織が対立し、ティーパーティー・ネーションが「ティーパーティー・エクスプレスの人々は我々の友人である。彼らは、ネバダ州サーチライトでの大規模なイベントへの参加をティーパーティー・ネーションに要請するほどである。また、彼らの戦略ではなく、彼らの精神が正しいことを我々は信じる」と発表した事実に関連している。

ティーパーティー・パトリオッツの広報担当者ジェニー・ベス・マーティン (Jenny Beth Martin) は、「ある人物によるいくつかの気分を害する掲示、あるいは不快な発言は、ティーパーティー運動の意見もしくは行動を代弁するものではない」と宣言した声明を直ちに発表した。実際、マーティン自身は、ティーパーティー・パトリオッツの幹部たちの中で多くを占めるバーザーズのうちの1人ではない。それにもかかわらず、彼女の声明が「NAACPは長きにわたって人種差別主義の歴史を持つ」と論じた部分では、彼女は、昔から人種差別主義者であったように、有色人種のための擁護と述べる幹部たちの立場に味方した。彼女が、明らかに NAACP の決議文を示して「すべてのそれらの攻撃は正しくない」と主張したことは、証拠として多く存在する明白な事実をあっさり拒絶したことになる。

「セントルイス・ティーパーティー (St. Louis Tea Party)」は、以下の文章を含む決議文を採択した。すなわち、「まさに“人種差別主義者”という用語は、NAACP の会員たちを含む政治的に党派心を強く抱く人々によって乱用されてき

たために、用語の意味の重要性を薄めている」と。

セントルイス・ティーパーティーとまったく同様の動きをした「保守派市民評議会（Council of Conservative Citizens）」は、その論争に答えて、『人種主義、シュマシズム（Racism, Schmacism）』と題されたジェームズ・エドワーズ（James Edwards）の下りの一説を再版した。メンフィス地区出身のAMラジオのトーク番組ホストであるエドワーズは、以前から白人愛国主義運動に参加している人物であり、デビッド・デュークおよびその他の人々に頻繁に発言の機会を提供している。エドワーズは、「人種差別主義」という用語は、単に「白人を意味する」と主張した。彼は、人種差別主義への非難に対してとくに、ティーパーティー参加者たちが「だから？」あるいは「もちろん我々は人種差別主義者である—我々は白人である」と返答すべきだと述べた。ここで、エドワーズと保守派市民評議会は、ティーパーティーの内部へ接近する白人国家主義者の方法全体を再び詳述していた。すなわち、この勃興期にある運動をさらに自覚的な白人人種差別主義へと向かわせることであった。

7月14日、「ティーパーティー連合（Tea Party Federation）」は、組織の会員としてマーク・ウィリアムズとティーパーティー・エクスプレスがいたが、NAACPの決議文に対して直ちに拒絶する旨を公表した。すなわち、「ティーパーティー連合（NTPF）は、今日、ティーパーティー運動における“人種差別主義的分子たち”を非難する、NAACPの根拠のない告発をはっきりと拒絶する」と。ちょうどその3日後、ティーパーティー・エクスプレスがその指導者を追放することを拒絶した後、ティーパーティー連合は、二つ目の声明を公表した。この声明は、ティーパーティー・エクスプレスとその会員から除名することを示したものであった。注目されるのは、この二つ目の声明がNAACPの決議文、あるいは「人種差別主義」という用語に全く言及しなかったことである。その声明は、7月14日の声明が間違いであるとは言及しなかった。にもかかわらず、ティーパーティー連合は、適切な行動をとった。

ティーパーティーの中で行動する黒人保守主義者たちは、ティーパーティー・

エクスプレスが後援し、2010年8月4日にワシントンD.C. で開催された集会において、NAACPの決議文に対する返答を披露した。この集会の講演者たちの多数は黒人であり、共和党あるいは保守主義運動、もしくはその両方と長年にわたって強いつながりを持つ人々であった。いずれにせよ、それらの講演者たちにとって、NAACPを非難することは珍しいことではなかった。しかしながら、その集会では、二つの相対立するようなことが同時に生じた。すなわち、一部のティーパーティー参加者にとって、人種差別は、イデオロギーよりもさして重要ではないということであった。それと同時に一本報告書で何度も言及したように多くのティーパーティー参加者は、国家的アイデンティティへの明快な答えを人種と宗教にもとめており、「自分」と「他者」の間に境界を置いている。

このように相違が明白であるにも関わらず、ティーパーティーの指導者たちは、彼らの運動の中で、人種差別主義者たちあるいは人種差別主義的信条がはびこってはいないと主張している。以下では、人種差別主義および人種の争点を伴う問題がティーパーティーの幹部たちに存在するという証拠の中に、世論調査のデータも加えることにする。

〈世論調査データ〉

世論調査データおよび確認できる証拠の両方に、ティーパーティーの出席者たちと彼らの支持者たちの大多数が白人であるという事実が見てとれる。重要なことは、それら白人ティーパーティー参加者たちが、とくに人種差別的だと議論を呼ぶ争点に関して、白人の一般的な態度と比べて、著しく異なった態度を示していることである。ティーパーティー参加者たちは、白人全体よりも、黒人たちに係わる問題が近年「多すぎる」と信じている。その割合は、ティーパーティー参加者が52%、白人全体で39%である。

ワシントン大学エスニシティ・人種・性別研究所が2010年3月に実施した複数の州での世論調査では、黒人に対する肯定的な態度について、決定的な違いが示された。ティーパーティーを強く否定する人たちのうちの55%は、黒人たちが

「非常に熱心に働いて」いるとの設問に同意を示した。一方で、ティーパーティーを強く支持する人のわずか18%だけが、黒人たちが「非常に熱心に働いて」いるとの設問に同意を示したにすぎなかった。この24ポイントの差が示しているのは、ティーパーティー支持者たちが、黒人たちの労働倫理について否定的な感情の傾向が一層強いことである。事実、ティーパーティーを「支持する人々」の68%は、黒人たちがより熱心に仕事に取り組めば、彼らは白人たちと同じようによい暮らしを送れると考えていた。その一方で、ティーパーティーを「否定する」人たちの場合、その割合は35%と、ほぼ半分に低下している。

さらに、ティーパーティー支持者たちのほぼ四分之三（73%）が、貧しい人々のために社会的セーフティネットを提供することを目指す政府の計画が、実際には、彼らに貧しい状態であることを促している、と回答した。事実、貧しい人々と彼らを支援するために作られた計画に対する敵意および不満には、逸話で語られるような不確かな証拠以上のものがある。それゆえに、前述のセントルイス・ティーパーティーの声明のような兆候が見られるのである。つまり、「他人の住宅ローンを払っているのなら、異議を申し立てろ」と。もちろん、すべてのティーパーティー支持者たちがそのような感情をあらわにしているわけではないことは確かである。しかし、いくつかの世論調査が示すところでは、ティーパーティー組織が悪意を持ったものとして描かれることに十分に信憑性を与えている。

同様に、逸話で語られる不確かな証拠と世論調査データの両方は、大統領とティーパーティー参加者たちとの間に大きな隔たりがあることを示している。ここでは、社会政策および立法への素朴な不同意以上のものが問題となっている。実際、ティーパーティー支持者たちの四分の一は、オバマ「政権が白人よりも黒人に好意的である」と回答している。バラク・オバマが「あなたのような人々の要望と問題を理解するか否か」との設問に対して、ティーパーティー参加者たちのほぼ四分之三（73%）が「否」と回答した。彼が「大部分の米国人が生活する上でよって立つ価値を共有」しない、と回答したティーパーティー支持者たちは、上記の設問と同程度の75%であった。

これらの数字が示唆していることは、移民、国家的アイデンティティ、および、このティーパーティー運動の中に現われた一つの問題—すなわち、誰が米国人なのか？—について、信条の対立へと直接向かう人種差別的および文化的差異である。

9. 「米国人とは誰のことか」：ティーパーティー、排他主義、およびバーザーズ 独立戦争時のコスチューム、同時期の黄色の「私を踏みつけるな」を書いたガズデン旗、忠誠の誓いを熱心に朗読すること、連邦憲法への崇拝、および世界での「米国例外主義」についての擁護は、国境を越えた経済圏と地球規模での組織化へと向かった。すなわち、そのすべてが、ティーパーティー運動を定義する際の重要なナショナリズムの兆候である、といえる。

しかしながら、それは、あらゆる米国人を内包するアメリカン・ナショナリズムの一形態ではなく、それが不適切にも「真の米国人」とみなす人々から、それ自身を分離していることだ。この点に関して、「真の米国人はアリゾナ州を訴えない」と題された近年のティーパーティー・ネーションのニューズレターの論稿、あるいは、態度の明確さと熱心さが感じられるティーパーティー集会での、「わが国の大統領と違って、私は傲慢である。私は、我々の国、我々の自由、我々の寛大さ、そして私が決して謝罪しないことを誇りに思う」と書かれた掲示カードを考えてみたい。

それは、大統領バラク・オバマが真の、生来の米国人ではなく、彼が他の国の人間であるという考えであり、まさに、ティーパーティーの幹部たちの多くが共有し、そしてこの運動をもはや後戻りできないところまで引きずり込む考えである。この考えの大部分は、ティーパーティーの組織を実際に形成する以前に生じていた。例えば、大統領選挙の前の2008年10月、エイミー・クレマーは、のちにティーパーティー・パトリオッツおよびティーパーティー・エクスプレスに所属する人物であるが、彼女は、上院議員のジョン・マケイン (John McCain) について、次のように記述している。すなわち、「…彼は、認められた出生証明書に

ついて議論するために、オバマはいらない（Nobama）と発言する必要がある。彼の原稿作成者たちが作った言葉にうんざりしている！ジョニー・マック…、その核心をつくべきである！」と。この考えは、米国における既存の社会制度からの孤立とそれへの不信の深さと結びついている。2009年1月8日、彼女は、「私は、米国大統領となるオバマの資格に関するこの問題について、すべての希望を失っている。連邦議会が一つの異議もなしに大統領選挙人団の票を認めたのを CSPAN で見て、私はまったく幻滅している」、と記した。

2008年の大統領選挙の後、これらの見解を促進した人々の中には、ティーパーティー・ネーションのマーケティング担当責任者であるパム・ファンズワース（Pam Farnsworth）がいた。彼女は、2009年6月4日のツイッターにおいて、「出生証明書はどこにある？」とつぶやいた。彼女はまた、「新しい証明書がオバマを米国で生まれた市民にしたのであろう。連邦憲法は早くも、大統領に在職の資格を彼に与えていないか？」、とも述べた。

ティーパーティー・ネーションのウェブサイトの討論掲示板で、ある一般会員の「探検者チャールズ（Charles the pathfinder）」は、非米国人としての大統領を目立たせる方法について記した。すなわち、「もしオバマ（obama, 原文ママ）を阻止するべきであるなら、TPN はお互いに提案しあうことを止め、多少思い切った行動を採ったほうがよい。私は、すでに手遅れになることを恐れている。私の意見をあなた方は反対するかもしれないが、しかし、私は当初からオバマ（obama, 原文ママ）を研究してきた。あらゆる人々が今、彼が真のイスラム教徒であることを確認することを望む。そして、イスラム教徒が、とくにあらゆる異教徒と米国人たちを殺害するように教えられていると、私は聞いたことがある。彼はいつ、彼のすべての背信的な行動に答えを出さなければならないのか」と。バラク・オバマが真の米国人ではなく、「うそつきのアフリカ人」であるという考えや見解はまた、ティーパーティー運動全体にわたって散見される。それらの考えを繰り返す多数の投稿が、ティーパーティー・ネーションのウェブサイトが存在している。

2009年4月15日以降の多様なティーパーティーによる街頭行進において、オバマ大統領が生来の米国人であると信じない人々が広く見受けられる。彼らは、オバマがキリスト教徒ではなくイスラム教徒であり、ハワイではなく、ケニヤかインドネシアの生まれであり、陰謀を用いてホワイトハウスへ滑り込んだ、非・米国人社会主義者であると主張している。ティーパーティーは財政政策の問題にのみ限定すべきであるとするディック・アーミー (Dick Armey) およびフリーダムワークスによる呼びかけは、明らかにまれにしか見られない。

実際、このような主張が拡大したので、オバマ大統領が、彼が公言するようなキリスト教徒ではなく、イスラム教徒であると信じる米国人の数は増加した。彼が就任した直後の2009年3月には、彼がイスラム教徒であると信じる米国人の割合は11%であった。2010年8月の『ピュー・リサーチ・センター』による調査によると、その割合は18%になった。その割合は、大統領の政策に反対する保守的な共和党支持者たちの間で最も高かった (34%)。白人プロテスタントの福音派の間では、大統領がイスラム教徒であると信じる割合は、8月の調査ではなんと29%であった。

社会学者たちは依然として、2009年3月から2010年8月の間までの割合の上昇が、ティーパーティー参加者たちによるプロパガンダによって生じたとは述べてはいないものの、しかしこの時期には、激しい抗議行動と市民の動員があった時期と重なっている。このように、ティーパーティーの組織は、特定のバクテリアが成長し、そして拡散することが可能な培養皿となった、といわざるを得ない。

〈パメラ・ゲラーとイスラム嫌悪〉

「イスラム嫌悪 (Islamophobia)」という用語は、1997年の「ランニメド・トラスト (Runnymede Trust)」の報告書において、「イスラム教徒たちに対する理由のない敵意、あらゆる、もしくは大部分のイスラム教徒たちへの恐れ、あるいは嫌悪」、と定義された。その報告書の中では、以下のようなイスラム嫌悪の特徴的な要因が強調された。すなわち、「イスラム教徒は一枚岩的で、新たな現実

順応できない。イスラム教徒は、他の主要な宗教と共通の価値を共有しない。宗教としてのイスラム教は、欧米の宗教に劣っている。原始的で、野蛮で、しかも不合理である。イスラム教は暴力の宗教であり、テロリズムを支持している。また、イスラム教は暴力的な政治イデオロギーである」と。

事実、人種差別主義、反ユダヤ主義、および排外主義と並んで、イスラム嫌悪の要因は、ティーパーティー運動に深く入り込んでいる。ティーパーティーの指導者たちおよび会員たちは反イスラム教的な言葉を使用している。この点に関して、ティーパーティー運動と強い結びつきをもつパメラ・ゲラー (Pamela Geller) の存在が際立っている。

前述のように、ゲラーは、5月にテネシー州ガトリングバーグで開催された、ティーパーティー・パトリオッツが後援する大会での特別講演者であった。数週間にわたって、イスラム嫌悪にまつわる活動を行なったゲラーの経歴に懸念を持った地域の組織から圧力をうけたにもかかわらず、その大会の主権者たちはゲラーの招待再考を拒んだのである。

ゲラーはまた、2010年8月にアリゾナ州で開催された、ティーパーティー・ネーションが後援する反移民集会でも講演した。彼女は、来る10月に開催される、ラスベガスでのティーパーティー・ネーション統一大会 (Tea Party Nation Unity Convention) で講演する予定である。

ゲラーは、三つの組織の指導部と緊密な結びつきを維持している。すなわち、「アトラス・シュラッグス (Atlas Shrugs)」、 「SIOA (アメリカのイスラム化を阻止する会, Stop Islamization of America)」、および「自由擁護イニシアティブ (Freedom Defense Initiative)」である。これらすべては、レジストネット・ティーパーティー分派の公式「パートナー」組織である。彼女は、レジストネットの指導者ダラ・ダワルド (Darla Dawald) が積極的に宣伝するレジストネットのラジオ番組にも出演している。

レジストネット・ティーパーティーのウェブサイトで、ゲラーのような指導者たちが、ある集団全体をその信条のゆえに侮辱する言葉を使うことは特段驚くに

あたらない。「我々は、すべてのイスラム教徒たちに反対の立場をとらなければならない局面にある。いかなる正しい、あるいは悪いイスラム教徒もいない。ただイスラム教徒たちがいるだけであり、彼らはわが国の政府、軍隊、および他の機関に入り込んでいる。我らのこの国を取り戻すために、これ以上、何を待つ必要があるのか…」。

多くのティーパーティー参加者たちと同様に、ゲラーもまたバーザーズである。オバマの出生証明書が「捏造」であると主張することに加えて、彼女は、オバマ大統領を「彼のイスラム教徒としての重荷を軽くしようとしている、第三世界の人間で臆病者」と呼んでいる。彼女は、オバマ大統領がイスラム教徒であるという偽りを語り続けているのだ。ゲラーはオバマを「イスラム教大統領」と言及している。「米国メディア問題 (Media Matters for America)」によると、ゲラーのブログには、「ホワイトハウスにイスラム教徒？」との文章を含む投稿が267も存在する。彼女は、バラク・オバマがマルコム X の私生児であるとの主張を真剣に訴えている。

ゲラーが彼女のブログであるアトラス・シュラッグに投稿した多くの扇動的な声明の中には、以下のような記述がある。すなわち、「史上最も分裂を生み出す大統領が、内戦を望んでいることは一層明確である。そして、彼は着実にそこへ向かっていく—もし彼が米国の人々の意志を無視し続けるならば」と。

〈排外主義とアリゾナ州上院提出1070号法案〉

米国人としてのオバマ大統領に関するこれらの疑念と拒絶は、多くの場合、ティーパーティー分派における草の根と指導者層両方からの、移民排外主義的な活動段階および気運の高まりにつながっている。

前述したように、ナッシュビルでのティーパーティー・ネーションの大会において、前下院議員のトム・タンクレド (Tom Tancredo) は、熱烈な反移民演説を行なった。また、彼とともに他の人々も、同様の傾向の作業部会に参加した (タンクレドがコロラド州の州知事選挙に立候補することを決意した後、一部の

ティーパーティー参加者たちは後に、彼に狼狽したが）。実際、ティーパーティー・ネーションは、排外主義者団体とのつながりと反移民の争点を促進することについて、1776ティーパーティーと同じ立場である。さらに、ティーパーティー・ネーションのウェブサイトへそのような投稿がなされる回数は増加している。

例えば、テネシー州ゲインズボロ出身の TPN の会員であるドナ・ベーカー (Donna Baker) は、以下のように記述した。すなわち、「確かに、操られた下層階級の群れがわが国に押し寄せる前は、ものごとは極めてうまくいっていた。もし彼らが故郷にとどまり、わが国の法律を施行すべきでないと要求して我々の街頭で行進を行なうのと同じく、彼らの国を変えるための活動を行っていたならば、彼らは自身の生活を変えることができたであろう。彼らは、他の勢力から巧みに利用され、操られている…。その勢力とは、巨大な、急成長している集票組織である」と。

別の会員のロバート・マシソン (Robert Matheson) は、以下のように述べている。すなわち、「確かに、私はオバマにとっても怒りを覚え、うんざりしている。私はデトロイトに住んでおり、この地区にはメキシコ人とアラブ人があふれている。彼らは、グランホルム州知事とカナダに面するわが国の国境の抜け穴のおかげで、認可された運転免許証、福祉、および建設業界での仕事を求めて、ここにやってくる」と。

指導者から、メール受信者に向けて不法移民に関する新たな TPN の討論掲示板に投稿するよう求める2010年8月3日のメールも存在している。「もし、あなたが不法移民による犯罪の被害者であるならば、もしくは、商売敵が不法移民たちを雇用しているゆえにあなたの企業がうまくいっていないのならば、もしくは、あなたが不法移民たちに仕事を奪われたなら、我々はそれについて知りたい。もし、あなたが、無礼な（米国旗を焼く、我々の頭上にメキシコ国旗を掲げる、人種差別主義者のポスターを掲げてみせるような）ことをしている不法移民たち、あるいは支援者たちの写真とビデオを持っているのなら、それらも同様に投稿してください」。

アリゾナ州議会が反移民法案（SB1070）を可決し、ジャン・ブリューワー（Jan Brewer）知事が署名した後、連邦判事は、当該法案の最も厳格な条項の多くの施行を一時差し止める命令を出した。その問題は最終的に、連邦最高裁へと持ち込まれそうである。それに対抗して、ティーパーティー参加者たちは、SB1070への支持を促進している。たとえば、ティーパーティー・ネーションは、8月15日にアリゾナ州で開かれた「統一国境連合ティーパーティー（United Border Coalition Tea Party）」の後援団体の一つであった。ティーパーティー・ネーションはまた、そのイベントを後援するために、「パトリオット・コーカス（Patriot Caucus）」と「統一我々は米国人の味方（United We Stand For Americans）」と連携した。

同じく、ティーパーティー・パトリオッツの全国指導者評議会（National Leadership Council）は、「SB1070が施行されるその日に、アリゾナの人々と州への彼らの支援」を示すため、7月29日の1時間の間に、イベント開始の合図を示す掲示カードを掲げるよう支部の会員へと要請することについて、圧倒的な賛成票を投じた。

1776ティーパーティーが掲げる「譲歩できない核心的信条」のリストには、財政および税制に関する一般的な項目が並んでいる。また、「不法外国人は違法である」と「英語でのみ会話する」という項目も含まれている。この分派はさらに、アリゾナ州をかき乱す反移民法である SB1070を支持している。この特異ともいえるティーパーティー組織が、その指導者に、反移民を訴えるミニットマン・プロジェクト出身の2人の指導者を引き入れたことを思い出してほしい。それゆえ、彼らの代表は、「ティーパーティー？我々はアリゾナ州の味方であり、どうしてそうでないのか。連邦政府は、我々がカネのなる木で、彼らが搾り取らなければならないことのほかに、我々について少しも気にしていないし、我々のうちの何人かが殺され、メキシコへ連れ去られ、あるいは誘拐されたとしても、それは仕事を行なう上での費用なのである！」と主張した。

1776ティーパーティー組織の運営責任者は、さらに、アリゾナ州の反移民法を

支持する弁明を、以下のように明快に述べた。すなわち、「ティーパーティーは掲示カードを掲げて合図し、行進し、そして大きな政府に抗議している。しかし、アリゾナ州に住む人々が彼らの生活の静けさを脅かされた時、我々は市民たちに寄りそうであろうか？アリゾナはティーパーティーと全米市民の支援を必要としている。他の（ティーパーティー）組織には、彼らの綱領にほんの一つもしくは二つの項目しかない一方で、我々には15の明確な項目がある。たった一つの項目でもって、どのように愛すべきわが国を元に戻すことができるか？わが国の国境は破られてしまっており、我々の仕事は流出し、我々が持つ銃は徐々に没収されていることは、ほとんど話題にならない。わが国の市民たちが、不法侵入者の一群の侵略を恐れて家に隠れる一方で、我々は世の中の生活の静けさを保証できるのか？…我々は断じて身を引くことはないし、黙ったままでいることはない」と。

〈ディック・アーミーおよびフリーダムワークスとの対立〉

排外主義者とバーザーズのこのような大げさな発言は、フリーダムワークスのディック・アーミー（Dick Armey）との亀裂を生じさせる結果を招くには十分すぎるものであった。テネシー州東部にあるティーパーティーの主催者であるゲリー・アームストロング（Gary Armstrong）は、移民に関するアーミーの発言の記録を知った後に、フリーダムワークスのEメール・リストへの登録を削除したことを述べ、そして、『ポリティコ』紙の取材に対して、「今すぐ、ディック・アーミーを強く非難すべきであると私は思う」、と答えた。移民に対するアーミーの立場は、多くのティーパーティー参加者たちを憤慨させたのは当然である。ティーパーティー支持者であるミッシェル・マルキン（Michelle Malkin）は、アーミーを「恩赦を述べるあやつり人形」、さらに「債務者救済、大きな政府、共和党連邦上院議員ジョン・マケインを支持するばかり者だ」、と呼んだ。

ノースカロライナ州の移民排外主義組織「合法移民を求める米国人の政治活動委員会（Americans for Legal Immigration PAC, ALI-PAC）」は、ALI-PACの代表であるウィリアム・ギーン（William Gheen）が2010年3月、以下のようなメ

ールを送信した時、争いに加わることとなった。つまり、「フリーダムワークス（ティーパーティー運動を支配しようと試みる組織）のディック・アーミーは、不法移民への恩赦を支持している」と述べ、そして「このことは、なぜワシントンのインサイダーがティーパーティー運動から不法移民の争点を取り除こうと試みているのかを説明することにならないか？」と訴えた。

ALI-PAC の非難は、縄張り争いに関するものである。ALI-PAC の代表であるウィリアム・ギーンは、ティーパーティーの中で、ALI-PAC にふさわしい場所を見出そうとしていた。ALI-PAC と同じく、反移民組織である「ナンバーズ USA (NumbersUSA)」は、ティーパーティー運動に深く食い込むことを試みている。その組織はまた、フリーダムワークスの身動きを取れなくさせ、ナンバーズ USA のような移民排外主義組織が入り込む余地を作り出すために、移民に関するディック・アーミーの立場を利用したのである。

「ディック・アーミーが国境開放論者たちを支持してティーパーティー参加者たちを唾然とさせる」と題されたブログの投稿で、ナンバーズ USA の代表者であるロイ・ベック (Roy Beck) は、アーミーが「ティーパーティーの中では問題にされない社会的争点として、移民問題が取り扱われることを望んでいる」と非難し、フリーダムワークスが「外国人労働者が流入し続けることを望む企業の受益者たちの要請により、争点を回避するために、地方のティーパーティーを威嚇し」ようとしていることを示唆した。

〈連邦議会におけるティーパーティー議員連盟〉

ティーパーティー、反移民をめぐる駆け引き、および生得的市民権の間のつながりは、連邦下院でのミシェル・バックマン (Michele Bachman) 率いるティーパーティー議員連盟の中に現われている。2010年7月に結成されたティーパーティー議員連盟は51名からなり、全員が共和党であり、議員連盟へと急速に拡大した。ミネソタ州第6選挙区選出のバックマンは、議員連盟の所属議員として、ミネソタ州からはただ1人の下院議員である。テキサス州選出の所属議員は10名、

ジョージア州からは5名、そしてカリフォルニア州からは4名、残りは全国各地からの議員たちである—北東部からの選出議員は1人もいない。

注目すべきは、51名のうち42名が、連邦議会の下院移民法改革議員連盟—適切な書類を持たない人に市民権を与えるいかなる移民立法に対して、最も強硬に反対する議員連盟—の所属議員であることである。第二点は、ティーパーティー議員連盟の39名が、HR1868、2009年生得的市民権法案の共同提案者であることである。現在、下院委員会で審議中のこの法案は、適切な書類を持たない両親の間において米国で生まれた赤ん坊に、米国の市民権を与えることを阻止することになる。それは、南北戦争後、新たな解放奴隷たちとその子供たちに市民権を保障するために加えられた連邦憲法修正第14条への明らかな異議申し立てである、と行ってよい。

「生得的市民権」に対する反対は、ティーパーティー運動全体に拡大しており、多くの場合、米国内で進行する人口上の変化への不安のあらわれと関連づけられている。米国では、白人たちは、今後数十年の間に、少数派人種たちからなる国の中で、少数派人種の一つとなることが予想されている。「ノー・アンカーズ (No Anchors)」と名乗るティーパーティー・パトリオツの活動家が行なったウェブサイトへの投稿は、そのことを明確に示していた。すなわち、「我々は、メキシコ人たちがここで子供を生むこと、また彼らに市民権を与えることをやめなければならない。今、我々がやめなければ、彼らは我々を追い抜くであろう。修正第14条は尊重される必要がある。それは不正確に解釈され、またこれについて誰も異議を述べない！！すべての政治家たちは、それを変えようとしなければ、それに同意したことになる」と。

レジストネット・ティーパーティーのアラバマ州代表ジェイソン・レブレット (Jason Leverette) が行なった同様の投稿では、真の米国人が「多くの子供を作る」ことを主張した。レブレットは、「メキシコ人が米国を侵略する理由には、仕事と“アンカー・ベイビー”のため以上のものがある。誘拐、殺人、暴行、奴隷交易、銃の密輸は、米国人たちを阻害し、米国人たちよりも数を増し、そして

米国を支配する多数派となるための、彼らの計画の別の面である！この潮流が続けば…、2050年までには、米国は、ホセ・ジェサス・デルガド・ゴンザレス・カルデロン（Hosea Jesus Delgado Gonzalez Calderon）、すなわち奴らに支配されるであろう！」と述べた。

以上で述べたように、ティーパーティーの内部に入り込んでいる説明できない人種差別主義として表面化してきていることは、移民排外主義とのつながり、生得的市民権への反対、オバマ大統領への侮辱、および米国の生活における新たな多数派への不安の中に如実に示されている、といわねばならない。

（末次俊之訳）

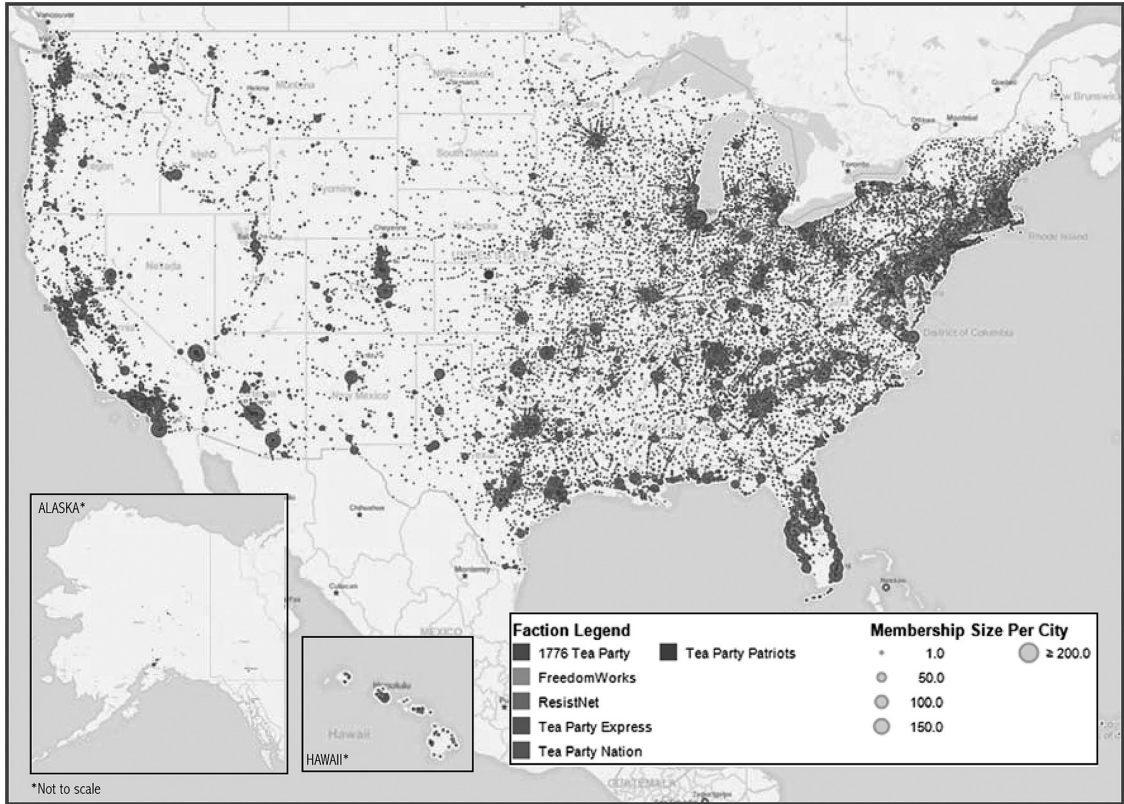


図1 ティーパーティー会員の分布

出典：Institute for Research & Education on Human Rights, eds., *Tea Party Nationalism: A Critical Examination of the Tea Party Movement and the Size, and Focus of its National Factions* [2010, Fall], p.14.

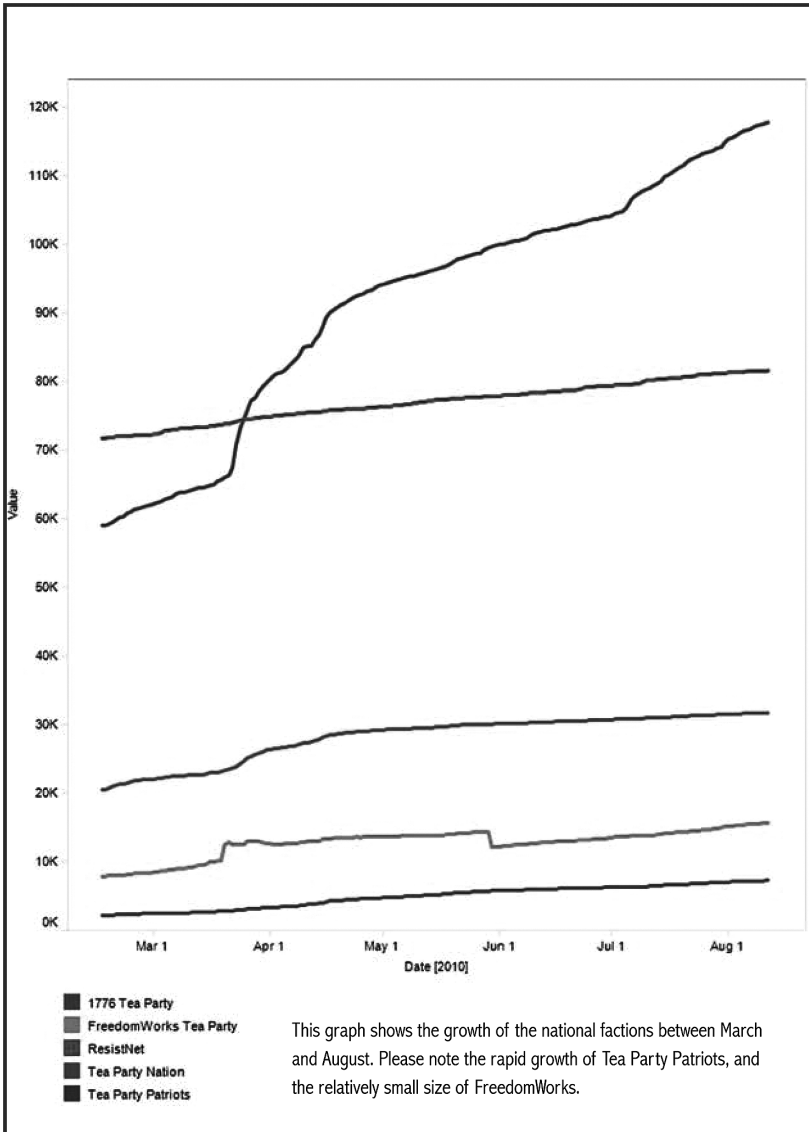


図2 ティーパーティー全国団体の会員数の増加

出典 : Institute for Research & Education on Human Rights, eds., *Tea Party Nationalism: A Critical Examination of the Tea Party Movement and the Size, and Focus of its National Factions* [2010, Fall], p.9.

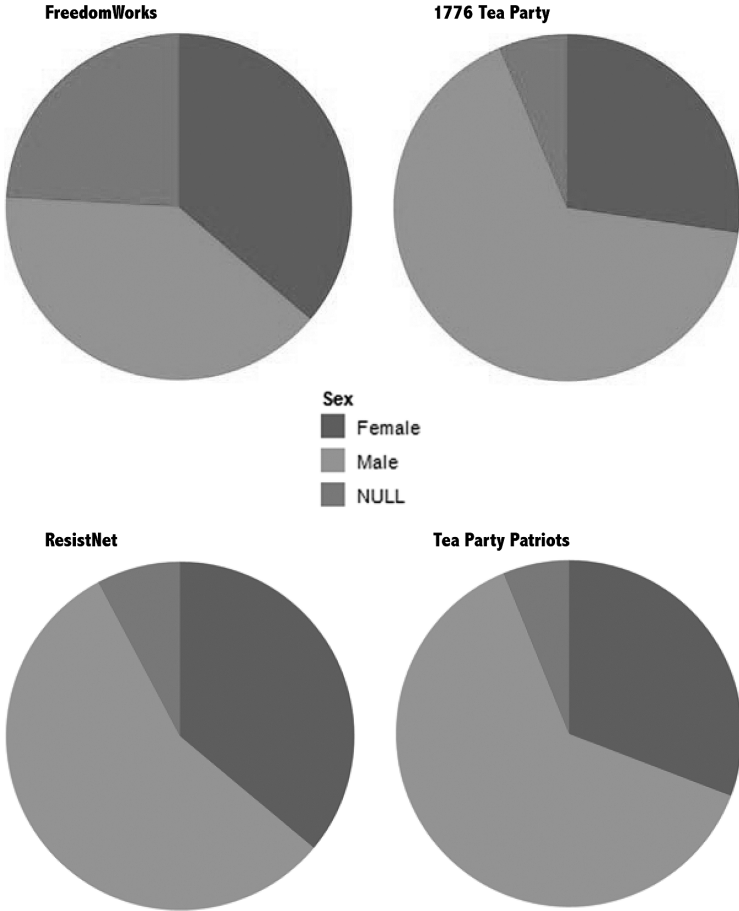


図3 ティーパーティー全国団体内での男女比率

出典：Institute for Research & Education on Human Rights, eds., *Tea Party Nationalism: A Critical Examination of the Tea Party Movement and the Size, and Focus of its National Factions* [2010, Fall], p.79.